



...for patient comfort.

2026年3月期 通期決算説明資料

決算発表 : 2026年5月7日

決算説明会 : 2026年5月8日

日本ライフライン株式会社

東証プライム市場 : 7575

Unauthorized copying prohibited.

Copyright © 2026 Japan Lifeline Co., Ltd. All rights reserved.

1. 2026年3月期 通期実績
2. 2027年3月期 通期予想
3. 中期経営計画の進捗
4. 質疑応答

Appendix 1 補足資料

Appendix 2 インベスターズガイド(サマリー版)

[こちら](#)でファクトシート(Excel/PDF)も開示しておりますので、ぜひご利用ください

1. 2026年3月期 通期実績
2. 2027年3月期 通期予想
3. 中期経営計画の進捗
4. 質疑応答

Appendix 1 補足資料

Appendix 2 インベスターズガイド(サマリー版)

[こちら](#)でファクトシート(Excel/PDF)も開示しておりますので、ぜひご利用ください

	2026/3期 通期
売上高	過去最高 59,187 百万円 (前期比 + 4.6%)
営業利益	過去最高 12,606 百万円 (前期比 + 2.3%)
純利益*1	過去最高 9,350 百万円 (前期比 + 0.4%)

決算ハイライト

増収増益

(売上高・営業利益・純利益いずれも過去最高)

外部要因

- (+) 心房細動症例数の増加 (前期比+10%弱)
- (-) PFA*2の影響

内部要因

- (+) コア製品群*3の伸長
- (+) 新領域*4の二桁成長が継続
- (-) 人件費や研究開発費等の増加
- (-) 在庫の評価損、本社移転

一過性要因

*1 親会社株主に帰属する当期純利益 *2 Pulsed Field Ablation (パルスフィールドアブレーション); 不整脈の新しい治療法として普及 *3 競争力が高く特に注力する4つの製品: ①心腔内除細動カテーテル【EP/アブレーション】、②大腿静脈用止血デバイス【EP/アブレーション】、③S-ICD【リズムデバイス】、④Frozen Elephant Trunk (フローズンエレファントランク)【心血管関連】 *4 脳血管関連および消化器

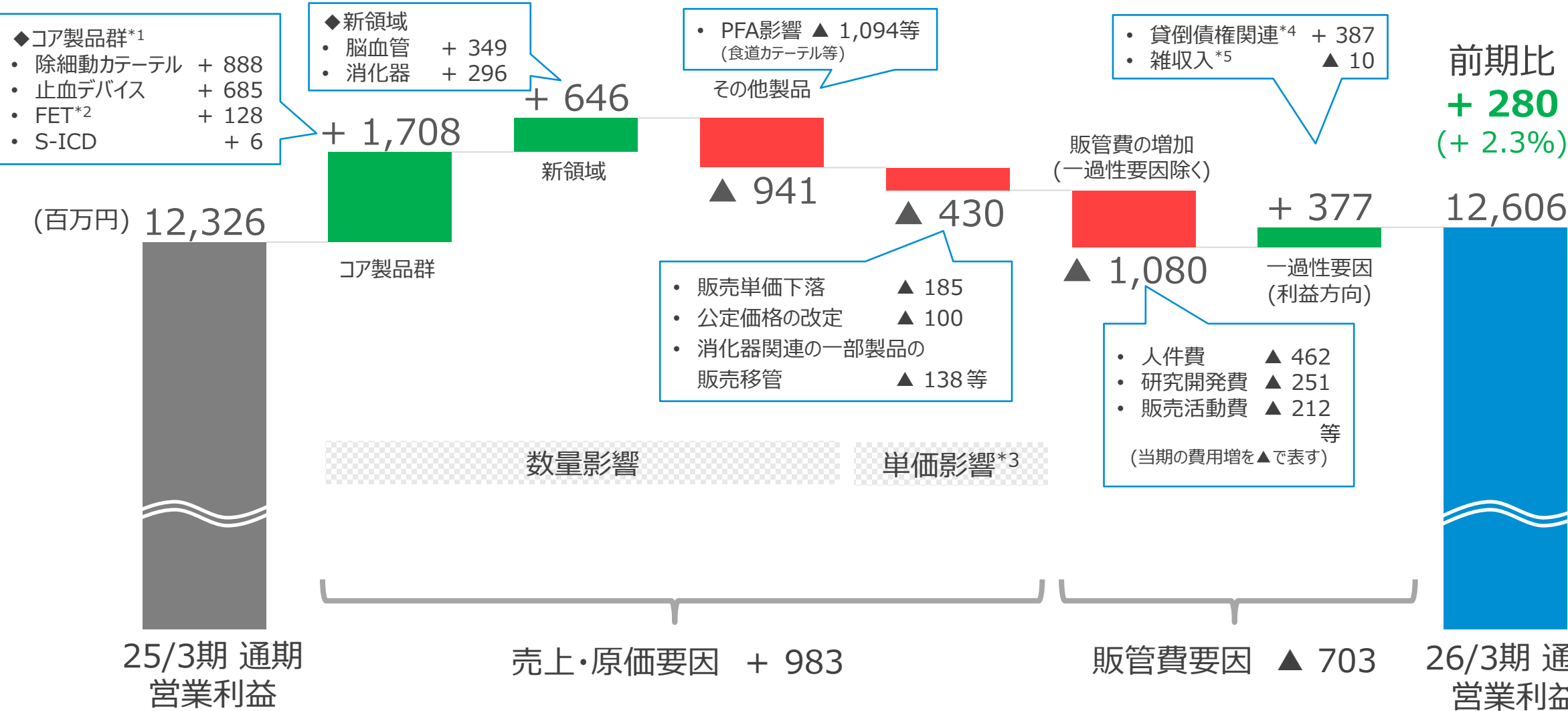
✓ 増収増益。売上高・営業利益・純利益は**過去最高**を更新

(百万円)	2025/3期 通期	2026/3期 通期	前期比		コメント
			金額	比率	
売上高	56,610	過去最高 59,187	+ 2,577	+ 4.6%	(+) 症例増による数量増加 (+) 新領域の拡大
売上総利益	34,191	35,174	+ 983	+ 2.9%	(+) 症例増による数量増加 (-) 公定価格の下落 (2か月分) (-) 製品ミックス
%	60.4%	59.4%		▲ 1.0pp	
販管費	21,864	22,567	+ 703	+ 3.2%	(-) 人件費、研究開発費等の増加
営業利益	12,326	過去最高 12,606	+ 280	+ 2.3%	
%	21.8%	21.3%		▲ 0.5pp	
純利益*1	9,317	過去最高 9,350	+ 32	+ 0.4%	(-) 胆道鏡システム*2、内視鏡レーザーカテーテル*3からの撤退に伴う在庫の評価損 (営業外：当期295百万円) (-) 本社移転関連費用 (特別損失：当期108百万円) (-) 前期に繰延税金資産を計上*4
%	16.5%	15.8%		▲ 0.7pp	
自社製品比率	57.4%	56.0%		▲ 1.4pp	仕入商品：+7.9%増収 (脳血管、止血デバイス等) 自社製品：+1.9%増収
海外売上高比率	1.9 %	2.5%		+ 0.6pp	
基礎的1株当たり利益	131.43円	133.30円	+ 1.87円	+ 1.4%	

*1 親会社株主に帰属する当期純利益 *2 消化器の胆道鏡システム *3 EP/アブレーションの内視鏡レーザーカテーテル (HeartLightX3) *4 投資有価証券の評価損に係る一時差異が予測可能な期間内に解消する可能性が高くなったことで繰延税金資産351百万円を計上

2026/3期 通期 営業利益の増減分析

✓ PFAの影響や販管費の増加はあるが、コア製品と新領域の成長でカバーし、増益で着地

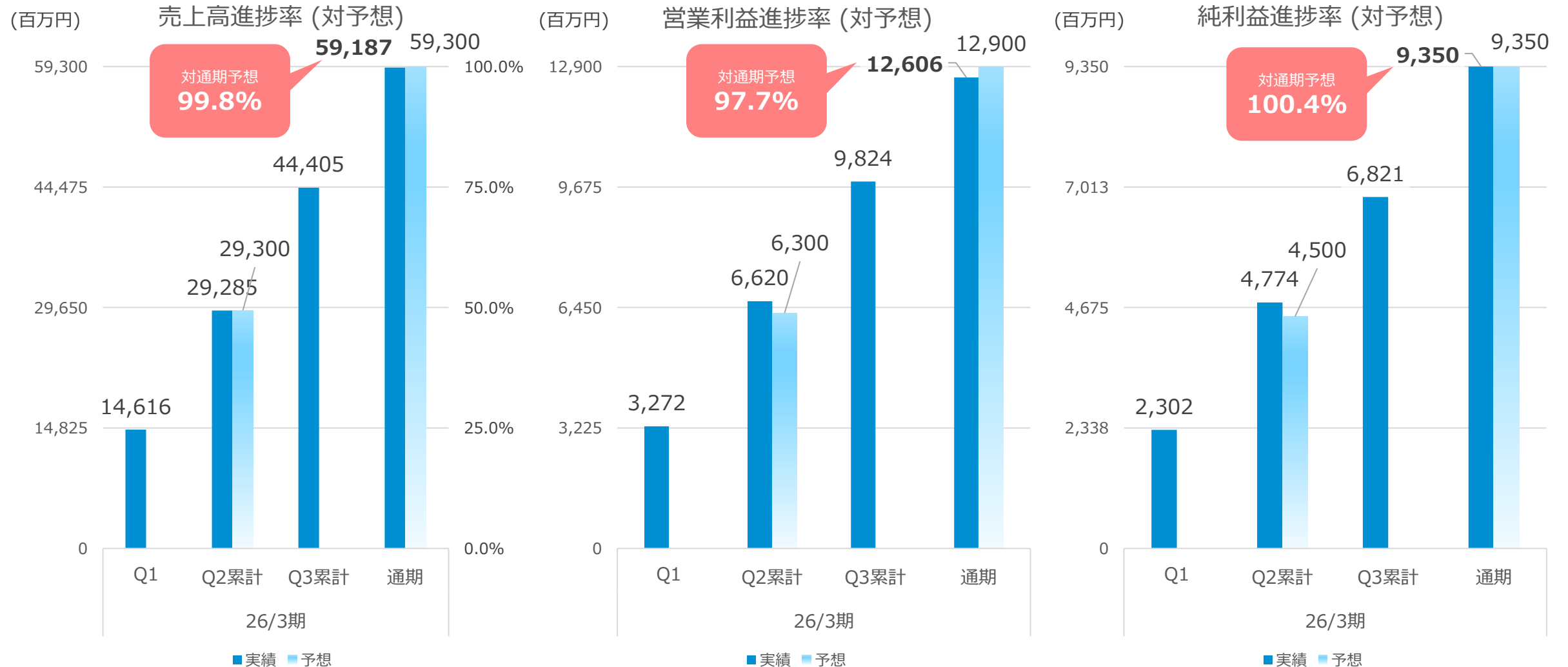


*1 競争力が高く特に注力する製品群 *2 Frozen Elephant Trunk【心血管関連】 *3 主な内訳は販売単価や原価単価の増減。製品廃棄・評価損の影響等を含む *4 25/3期 特定取引先1件の貸倒引当金繰入199百万円を計上、26/3期 貸倒引当金戻入199百万円を計上 *5 25/3期 Q1にBaylis社製品の販売契約終了に伴う在庫移管に関連する雑収入等が発生

6

2026/3期 通期 予想に対する進捗率

✓ 売上高・営業利益はわずかに未達、純利益は税額控除の取得等があり、計画通りで着地



既存領域 【構成比92%】*1

リズムデバイス

22%

- 不整脈を治療する体内植込み型機器など



【コア製品】
S-ICD

安定事業

EP/アブレーション

49%

- 不整脈手術で使われる医療用管など



【コア製品】
心腔内除細動
カテーテル



【コア製品】
止血デバイス

中核事業

心血管関連

21%

- 大動脈の外科手術で使われる人工臓器など



【コア製品】
Frozen Elephant Trunk

新領域 【構成比8%】*1

脳血管関連

5%

- 脳血管の詰まりを解消する管など



血栓吸引カテーテル



塞栓用コイル

成長事業

消化器

3%

- 消化器の詰まりを解消するステントなど



胆管チューブステント

*1 構成比は26/3期実績

- ✓ 医療機器が手術で使用するたびに売上が発生する
- ✓ 手術件数が増えるほど、売上が増加する

売上高

=

数量

×

単価

手術件数
(症例数)

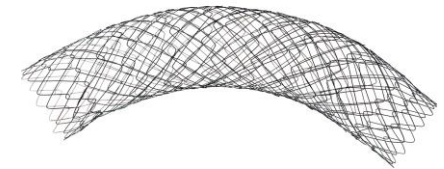
×

当社シェア

公定価格
(保険償還価格)

×

掛率
(代理店卸値)

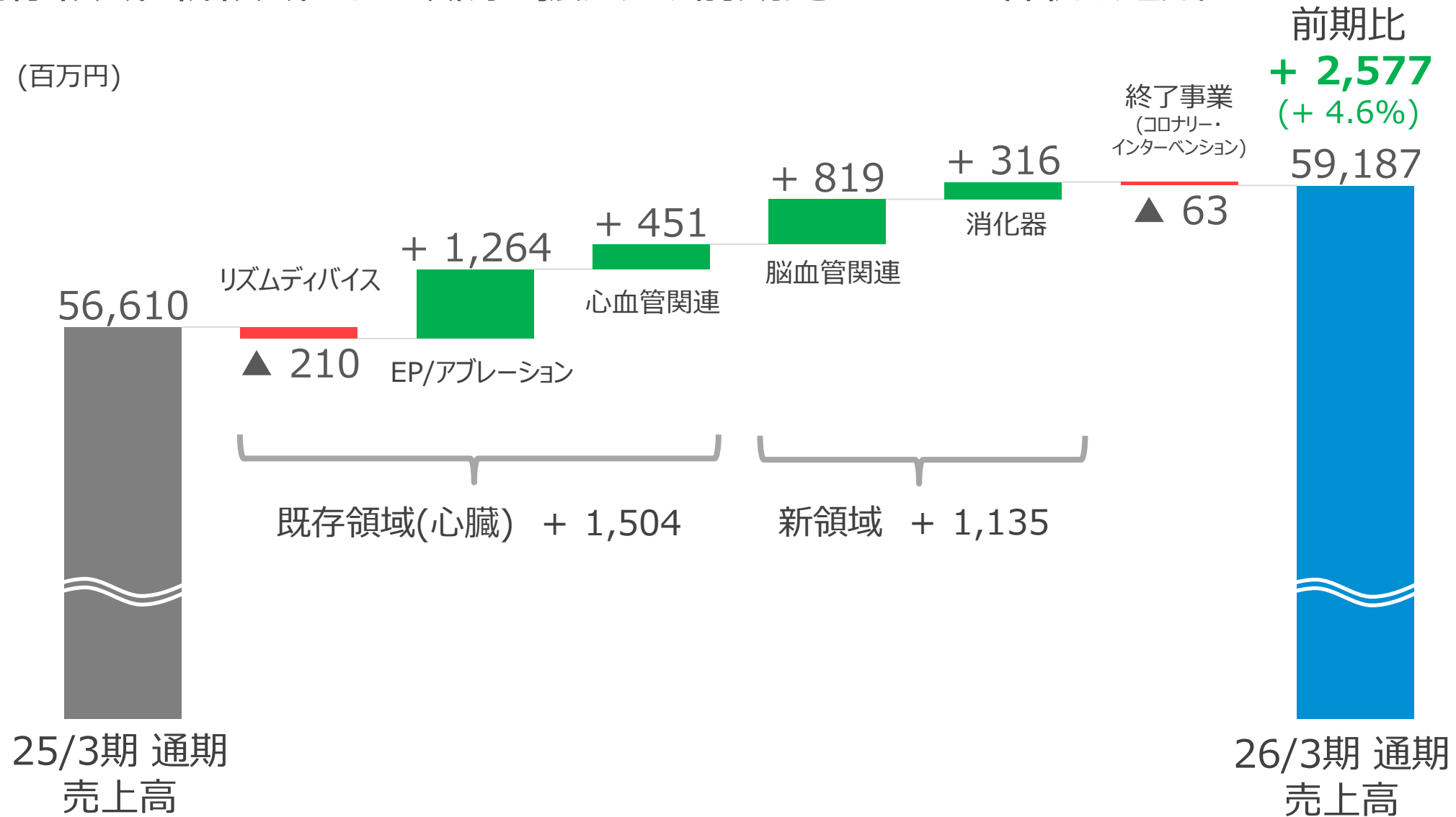


取扱製品のほとんどが、手術で使用する使い切りの医療機器

2026/3期 通期 売上高 前期比較

✓ 既存領域・新領域ともに順調に拡大し、前期比4.6%の増収を達成

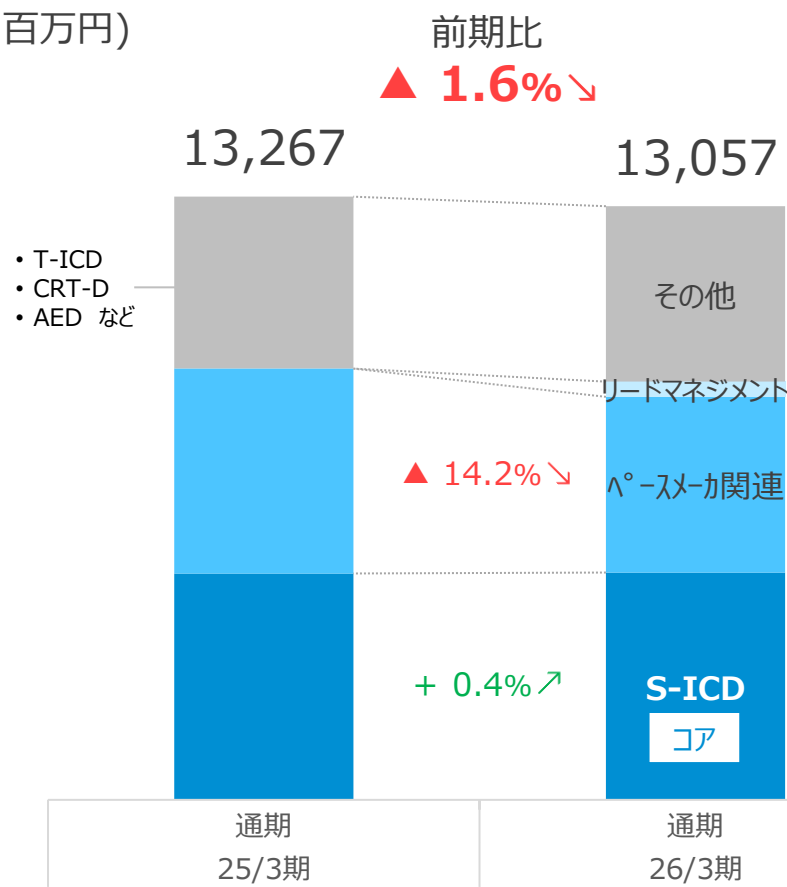
(百万円)



ペースメーカーで減収となるも、リードマネジメント製品の導入でカバー

リズムデバイス 売上高

(百万円)



市況 & 販売ハイライト

(一) ペースメーカー関連 14.2%減収

- 他社のリードレスペースメーカーが新規植込み症例で増加

(+) S-ICD 0.4%増収 コア製品

- 予防的植込み*1の浸透によりICD市場が拡大
- Q4は他社の新製品導入の影響を受ける

(+) リードマネジメント製品も純増寄与

- Q1から新規参入。Q4に新製品を追加で導入



S-ICD
「EMBLEM S-ICD」
(ボストンサイエンティフィック社製)



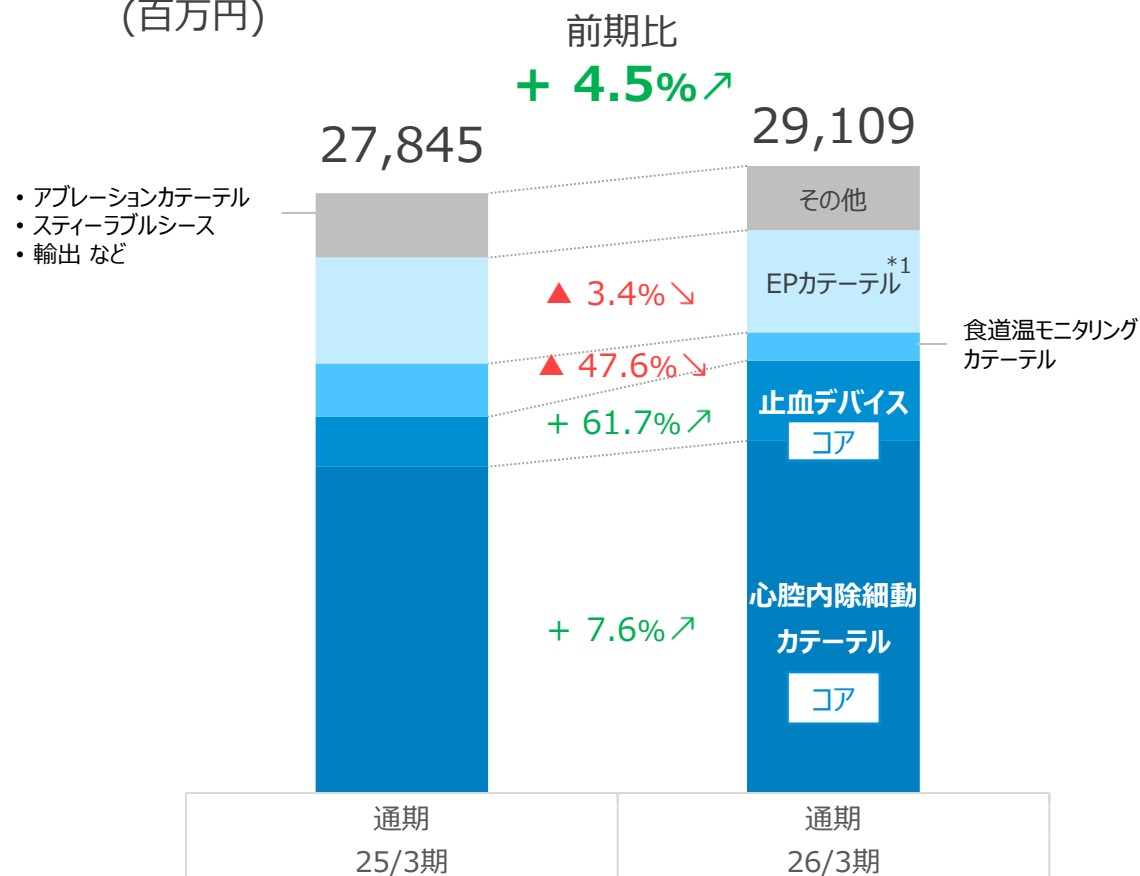
ペースメーカー・除細動器リード抜去キット
「TightRail」
(フィリップス社製)

*1 心臓突然死を予防する目的で、致死的不整脈の発症前にICDを植え込むこと

コア製品の販売堅調、PFAによるマイナス影響を吸収

EP/アブレーション 売上高

(百万円)



市況 & 販売ハイライト

(+) 心房細動(AF)症例の増加 前期比+10%弱

(+) 心腔内除細動カテーテル 7.6%増収 コア製品

➢ 数量+8.6%増加、推定シェア95% (3月)

(+) 止血デバイス 61.7%増収 コア製品

➢ 中小規模の施設数が増加、追加で導入したラージサイズの貢献開始

(-) PFA*2 の影響

➢ PFAはAF症例全体の65%まで普及 (Q3から微増)

➢ 食道温モニタリングカテーテル、EPカテーテルが減収

ただし、影響はQ3までで一巡

(+) 自社製品の中隔穿刺ワイヤを販売開始

➢ 初期の臨床使用では総じて高評価を獲得

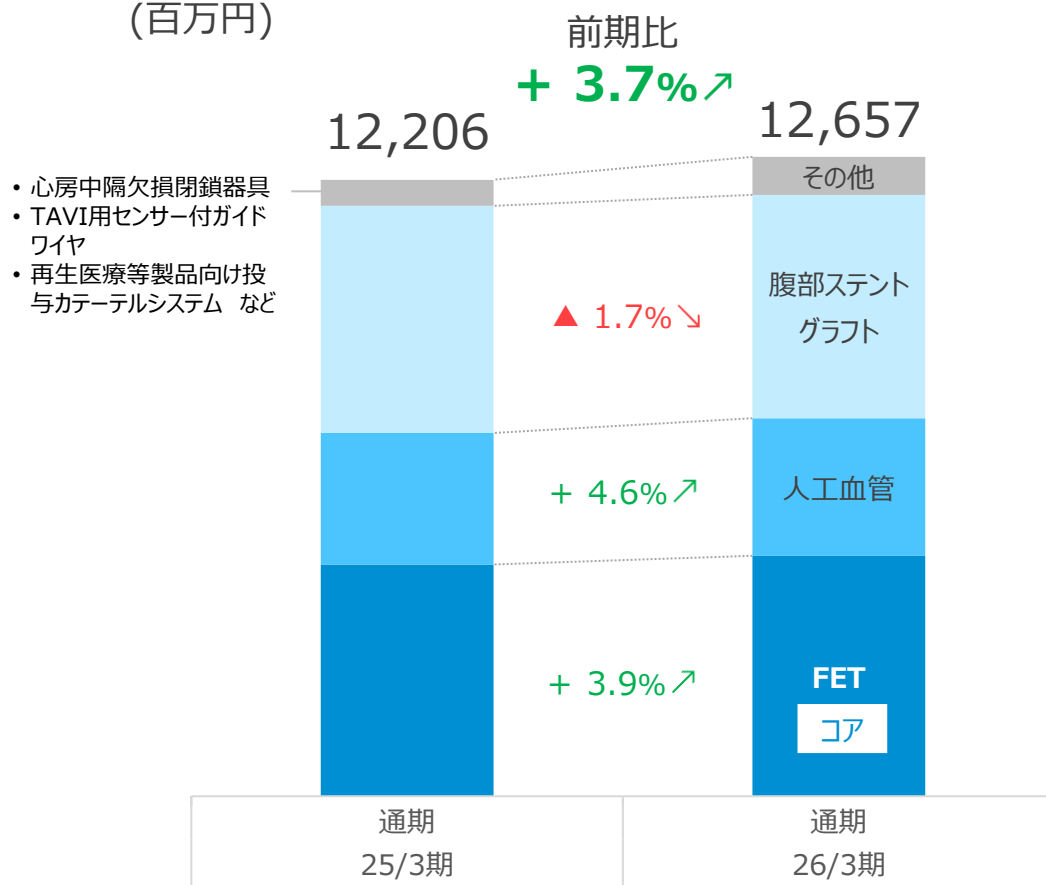
心房中隔穿刺用高周波ワイヤ
「XEROstar」
(自社製品)

*1 心腔内除細動カテーテルおよび食道温モニタリングカテーテルを除く電極カテーテル *2 外資メーカー3社が推進しているカテーテルアブレーションの新しい治療法。当社取扱い製品の需要が減るなど、マイナスの影響がある。

堅調な市場のもとで販売は順調に拡大

心血管関連 売上高

(百万円)



市況 & 販売ハイライト

(+) FET*1 3.9%増収

コア製品

- 国内市場 (数量) は3.1%増加、推定シェア90%を維持 (3月)

(+) 人工血管 4.6%増収

- 他社のラインナップ縮小を追い風に自社シェアが拡大

(-) 腹部ステントグラフト 1.7%減収

- 他社との競争が激化傾向

(+) その他

- TAVI*2用センサー付ガイドワイヤ (Q2～)
- 細胞投与カテーテルシステム (OEM供給)



FET 人工血管一体型
「Frozenix 4 Branched」
(自社製品)

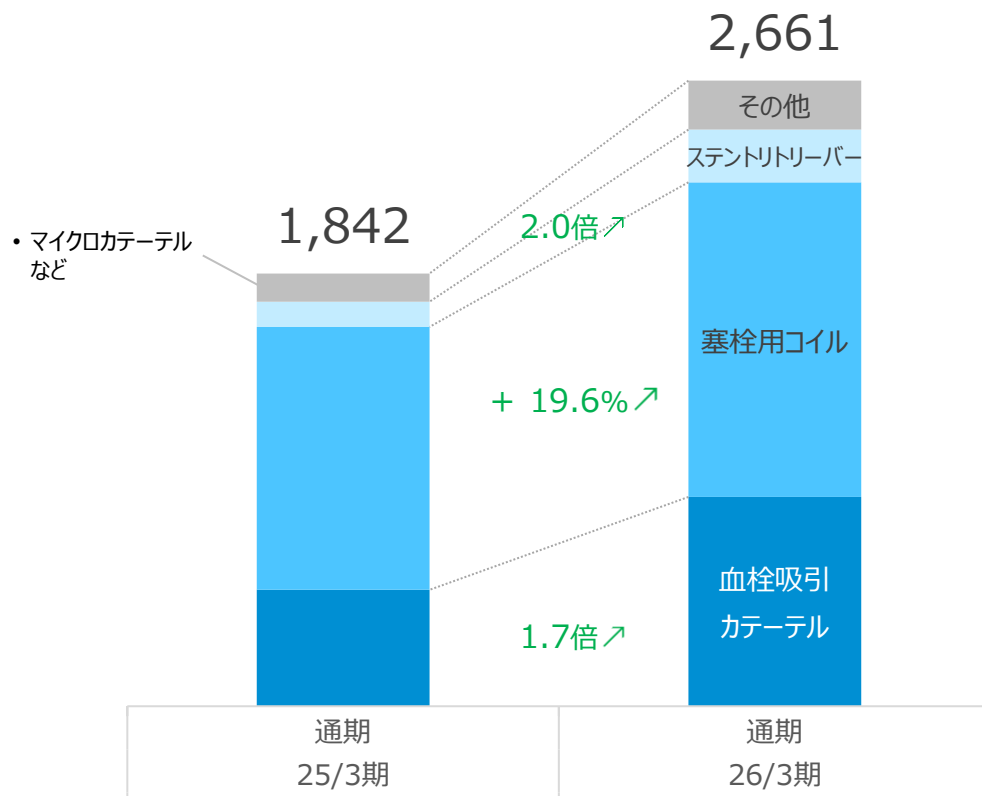
*1 FET= Frozen Elephant Trunk; 大動脈疾患の開胸手術で使われる末梢側にステントがついている人工血管 *2 TAVI=Transcatheter Aortic Valve Implantation (経カテーテル的大動脈弁植込術)

血栓吸引カテーテルが想定以上に好調、コイルも新製品効果で伸長を維持

脳血管関連 売上高

(百万円)

前期比
+ 44.5% ↗



市況 & 販売ハイライト

(+) 血栓吸引カテーテル 前期比 1.7倍

- 製品性能が評価され導入施設が拡大、推定シェア20%

(+) 塞栓用コイル 19.6%増収

- 市場認知度が増し、獲得症例の幅が拡大
- 放射線科向け等の新モデルで新販路の開拓も進む

(+) スtentリトリバー 前期比 2.0倍



塞栓用コイル
「MEGANir HELICAL」
(ワビーメディカル社製、
放射線科向けモデル)



血栓吸引カテーテル
「Esperance 3+」
(ワビーメディカル社製、
遠位血管向けモデル)

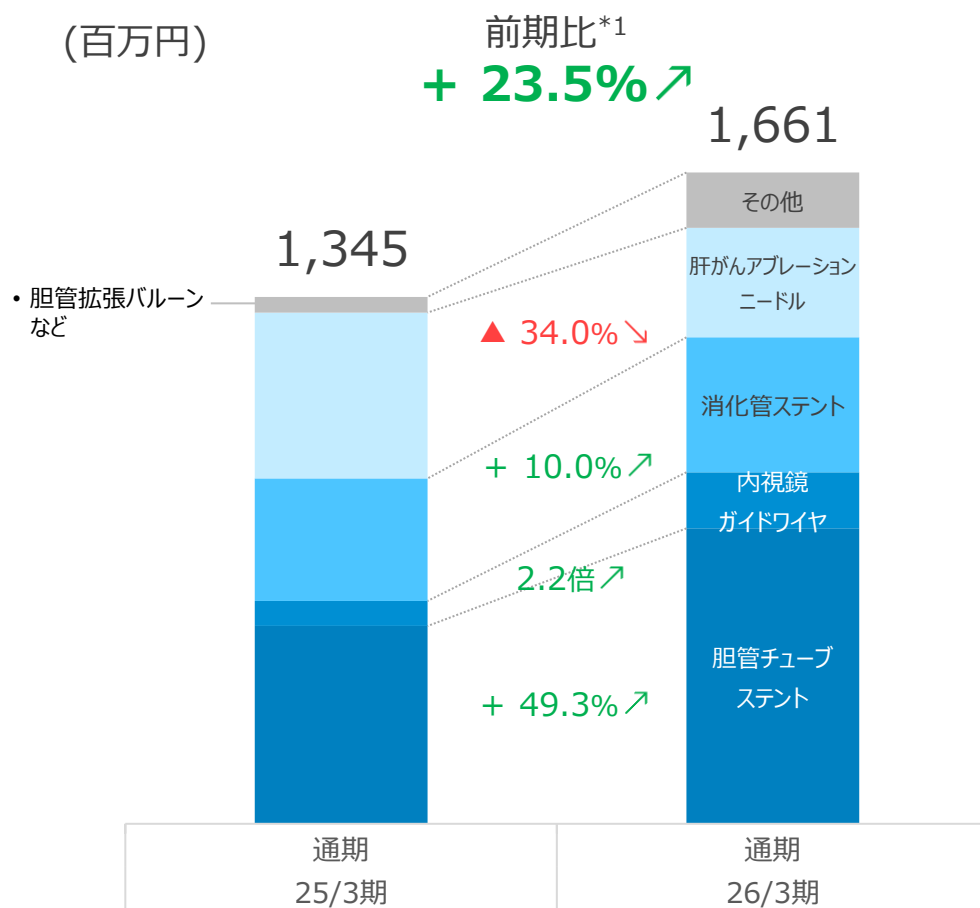


Stentリトリバー
「pRESET」
(フェノックス社製)
※ワビーメディカルグループ

胆管チューブステントの成長が加速、二桁成長が継続

消化器 売上高

(百万円)



市況 & 販売ハイライト

(+) 胆管チューブステント 49.3%増収

- Q1上市の新モデルが好評、在庫不足のためQ4まで新規開拓を抑制

(+) 内視鏡ガイドワイヤ 前期比 2.2倍

(+) 消化管ステント 10.0%増収

- 前期に胃・十二指腸用ステントで自主回収

(-) 肝がんアブレーションニードル 34.0%減収

- パートナー企業への販売移管により販売単価が下落



既存モデル：ストレートタイプ

胆管チューブステント
「REGULUS」
(自社製品)



新モデル：ピッグテールタイプ

*1 終了事業であるPCI（虚血性心疾患の経皮的冠動脈治療）を含まないベース。PCIを含むベースでは25/3期 通期 1,448百万円 26/3期 通期 1,701百万円（前期比17.4%増収）

1. 2026年3月期 通期実績
- 2. 2027年3月期 通期予想**
3. 中期経営計画の進捗
4. 質疑応答

Appendix 1 補足資料

Appendix 2 インベスターズガイド(サマリー版)

[こちら](#)でファクトシート(Excel/PDF)も開示しておりますので、ぜひご利用ください

	2027/3期 通期予想
売上高	過去最高 更新見込 63,200 百万円 (前期比+6.8%)
営業利益	10,700 百万円 (前期比▲15.1%)
純利益*1	8,000 百万円 (前期比▲14.4%)

業績予想ハイライト

販売は堅調で増収も、 本社移転・成長投資により減益

外部要因

- (+) 心房細動症例数の増加 (前期比+9%)
- (-) 公定価格の下落 (26/6)
- (-) 労務費等の製造コスト、販管費の上昇

内部要因

- (+) コア製品群*2中心に販売は堅調
- (-) 成長投資の加速
- (-) 本社移転費用を計上

一過性要因

*1 親会社株主に帰属する当期純利益 *2 競争力が高く特に注力する5つの製品：①心腔内除細動カテーテル「BeeAT」【EP/アブレーション】、②大腿静脈用止血デバイス【EP/アブレーション】、③心房中隔穿刺ワイヤ「XEROstar(ゼロスター)」【EP/アブレーション】(今回から新規追加)、④S-ICD【リズムデバイス】、⑤Frozen Elephant Trunk (フローズンエレファントトランク)【心血管関連】

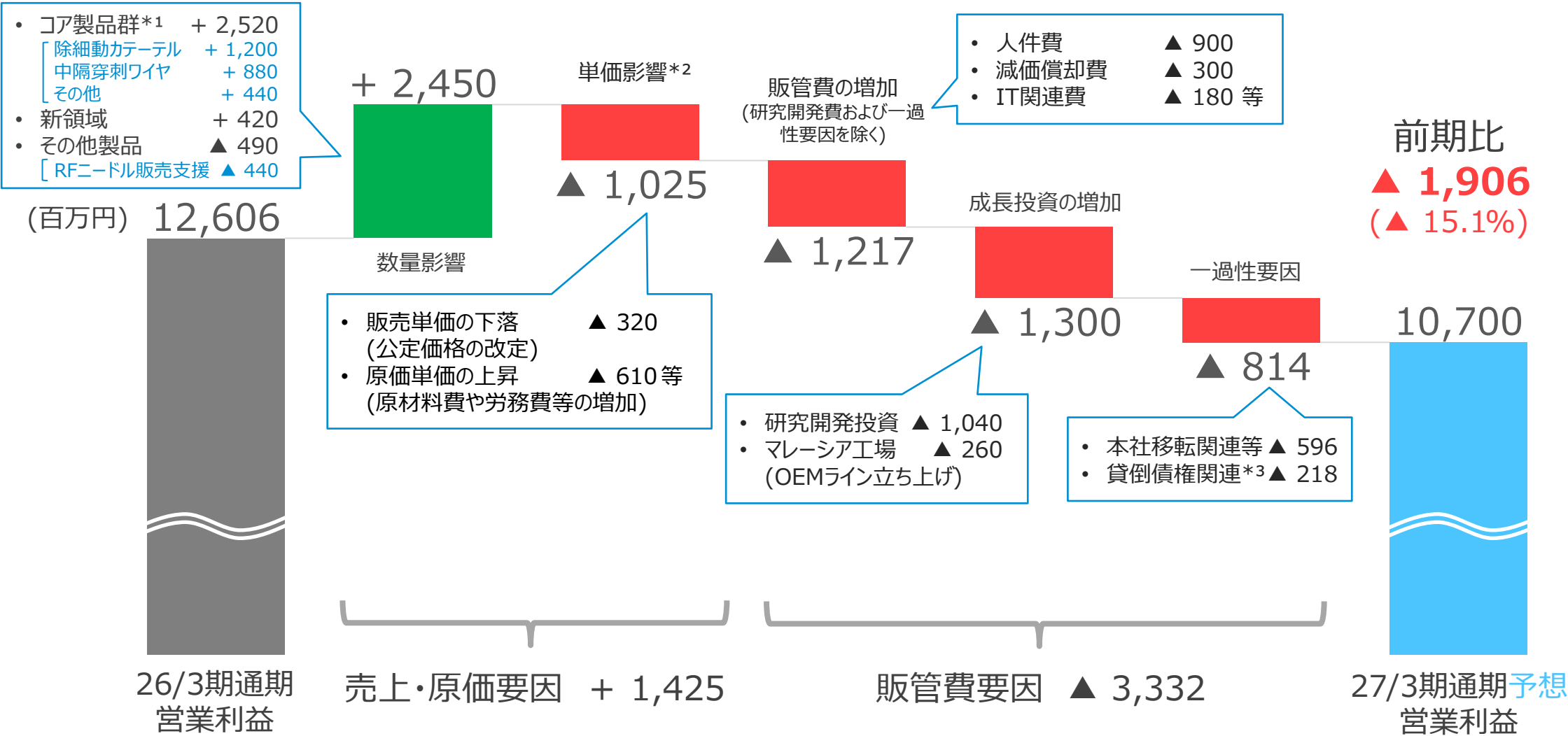
2027/3期 通期 連結P/L予想

✓ 売上高は過去最高となるが、先行投資の加速等により減益となる見通し

(百万円)	2026/3期 通期	2027/3期 通期予想	前期比		コメント
			金額	比率	
売上高	59,187	過去最高 更新見込 63,200	+ 4,012	+ 6.8%	(+) 症例増による数量増加、新製品寄与 (-) 公定価格の下落 (26/6; 影響10か月)
売上総利益	35,174	36,600	+ 1,425	+ 4.1%	(+) 他社RFニードルの販売支援終了 (2025/12) → 自社製品販売への転換 (2026/3~)
%	59.4%	57.9%		▲ 1.5pp	(-) 原材料費や労務費等の製造コストの増加
販管費	22,567	25,900	+ 3,332	+ 14.8%	(-) 研究開発費等の成長投資加速 (-) 人件費の増加 (-) インフレによる販管費の増加 (値上げ) (-) 本社移転関連費用等の一過性費用の発生
営業利益	12,606	10,700	▲ 1,906	▲ 15.1%	
%	21.3%	16.9%		▲ 4.4pp	
純利益*1	9,350	8,000	▲ 1,350	▲ 14.4%	(+) 投資有価証券の売却 (特別利益) (+) 固定資産除却損の減少 (特別損失)
%	15.8%	12.7%		▲ 3.1pp	
自社製品比率	56.0%	57.9%		+ 1.9pp	仕入商品: +2%増収見込み 自社製品: +10%増収見込み
海外売上高比率	2.5%	2.7%		+ 0.2pp	
基礎的1株当たり利益	131.43円	114.02円	▲ 17.41円	▲ 13.3%	

*1 親会社株主に帰属する当期純利益

✓ 販売面は堅調ながら、人件費を含む成長投資・一過性要因・インフレ影響が重なり減益



*1 競争力が高く特に注力する5つの製品：①心腔内除細動カテーテル【EP/アブレーション】、②大腿静脈用止血デバイス【EP/アブレーション】、③心房内隔穿刺用高周波ワイヤ【EP/アブレーション】(27/3期新規追加)、④S-ICD【リズムデバイス】、⑤Frozen Elephant Trunk【心血管関連】 *2 製品廃棄・評価損の影響等を含む *3 26/3期 特定取引先に関して貸倒引当金戻入(利益方向への寄与)を計上

(補足1) 公定価格の下落の影響

✓ 公定価格の下落影響は売上高で約4億円、前回改定に比べ軽微

(百万円)	前回改定 (24/6) 売上影響額*1	今回改定 (26/6) 売上影響額
リズムデバイス	▲650	▲80
EP/アブレーション	▲280	▲250
心血管関連	▲70	0
脳血管関連	0	▲80
消化器	▲30	0
合計	▲1,030	▲410
影響額の全社売上高 に対する比率*2	▲約2%	▲1%弱

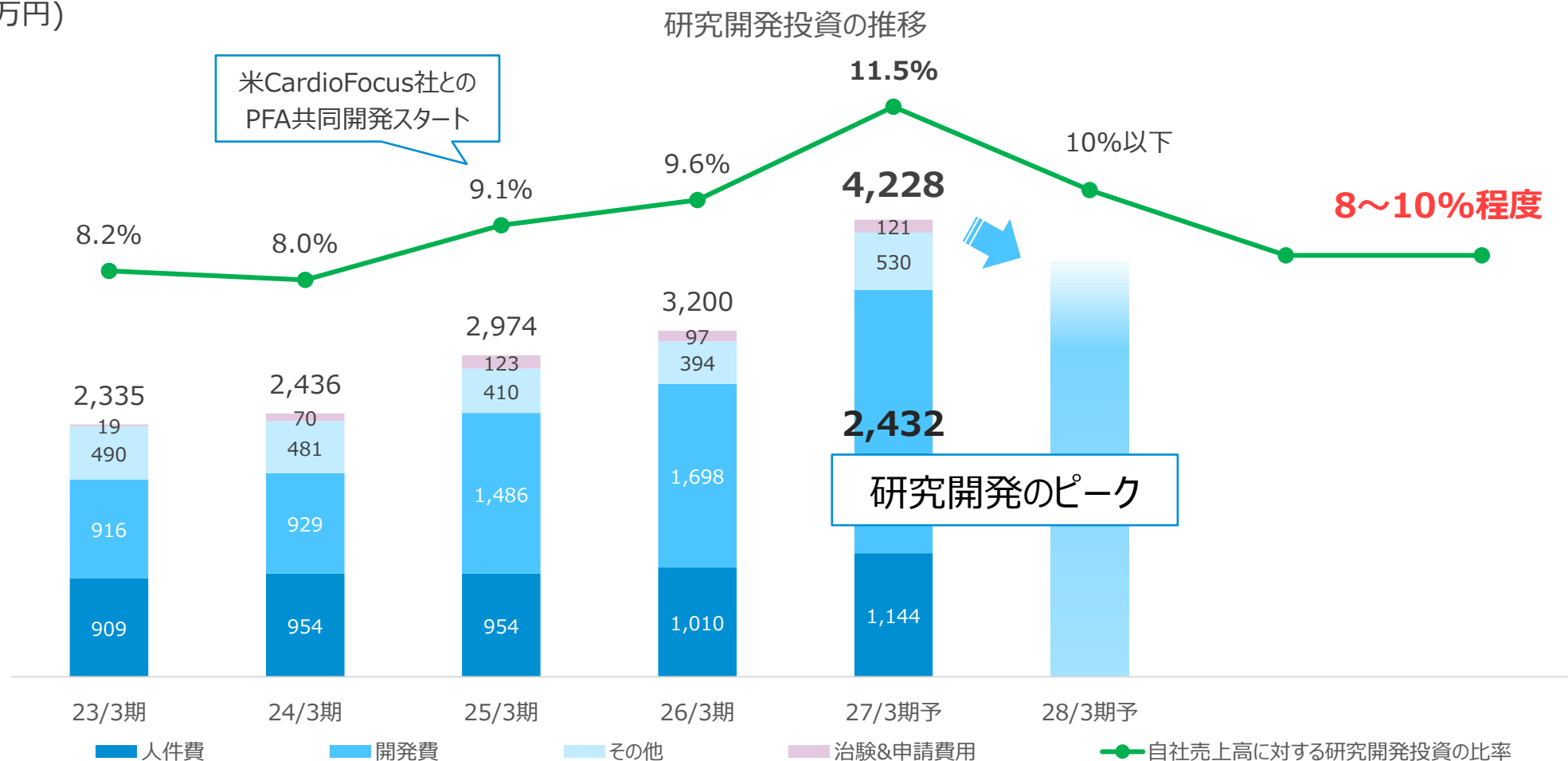
今回改定で3%以上下落した 主な品目		改定前 (円)	改定後 (円)	改定率 (%)
リズムデバイス	ペースメーカーリード	71,100	67,500	▲5.1%
	CRT-D	3,720,000	3,460,000	▲7.0%
EP/アブレーション	EPカテーテル (標準型)	43,100	40,500	▲6.0%
	〃 (冠状静脈洞型)	64,000	58,700	▲8.3%
	〃 (房室弁輪部型)	145,000	137,000	▲5.5%
脳血管関連	血栓吸引カテーテル	273,000	246,000	▲9.9%



(補足2) 研究開発投資の推移

- ✓ 27/3期～28/3期にかけてPFAなどの研究開発はピークとなる想定。今後、研究開発投資の自社売上高に対する比率としては、8～10%を目安に運用していく

(百万円)



(補足3) とくに注力している研究開発テーマ

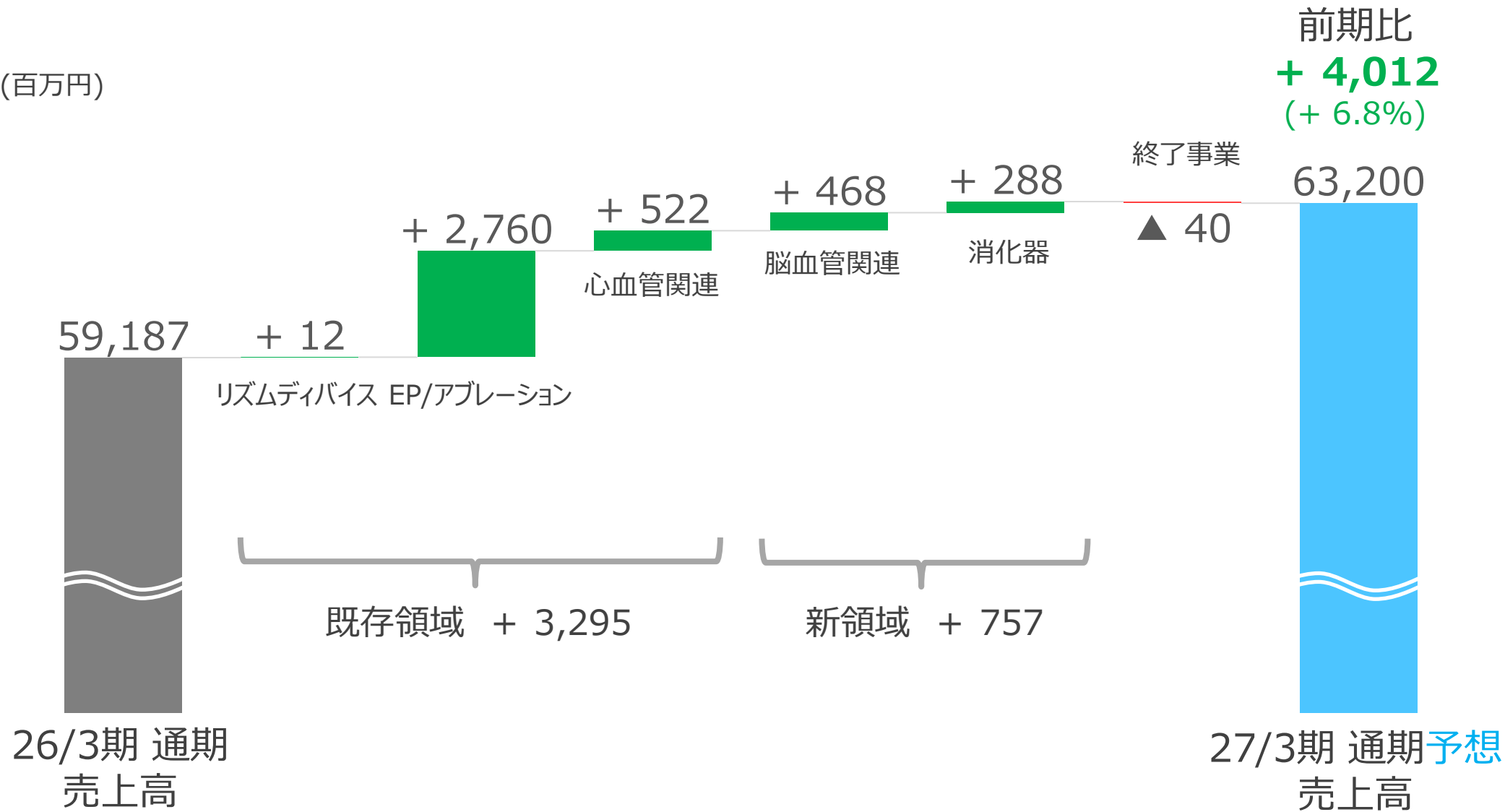
✓ 市場規模が巨大で持続的な拡大の見込めるEP/アブレーションのグローバル製品に注力

研究開発テーマ	取り組み	対象市場イメージ (5～10年後)	回収開始タイミング
EP/アブレーション (PFA治療用カテーテル) 27/3期：750百万円	- CardioFocus社との共同開発 - 独自製品開発も	グローバルで 1～2兆円	2027年頃 OEM供給 2030年頃 国内市場
EP/アブレーション (周辺デバイス) 27/3期：450百万円	国内製品のグローバル最適化 & 薬事費用 ⇒ 除細動カテーテル、中隔穿刺ワイヤ	グローバルで 3,000～4,000億円	2031年頃 米国・欧州
心血管関連 27/3期：400百万円	国内製品のグローバル最適化 & 薬事費用 ⇒ Frozen Elephant Trunk	グローバルで 350億円	2030年頃 米国
その他 27/3期：832百万円	- 消化器や再生医療などの戦略分野 - 既存製品の次世代品の開発 - 工程や材料の改良		

2027/3期
開発費用
2,432
百万円

✓ 全ての品目で増収、売上高は前期比6.8%の成長を見込む

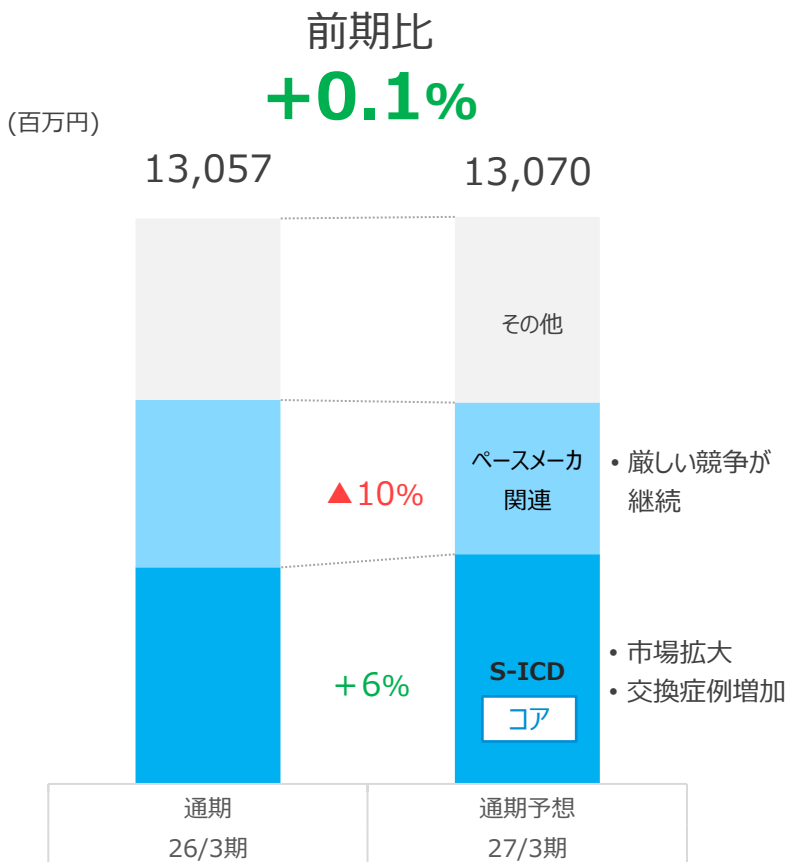
(百万円)



リズムデバイス



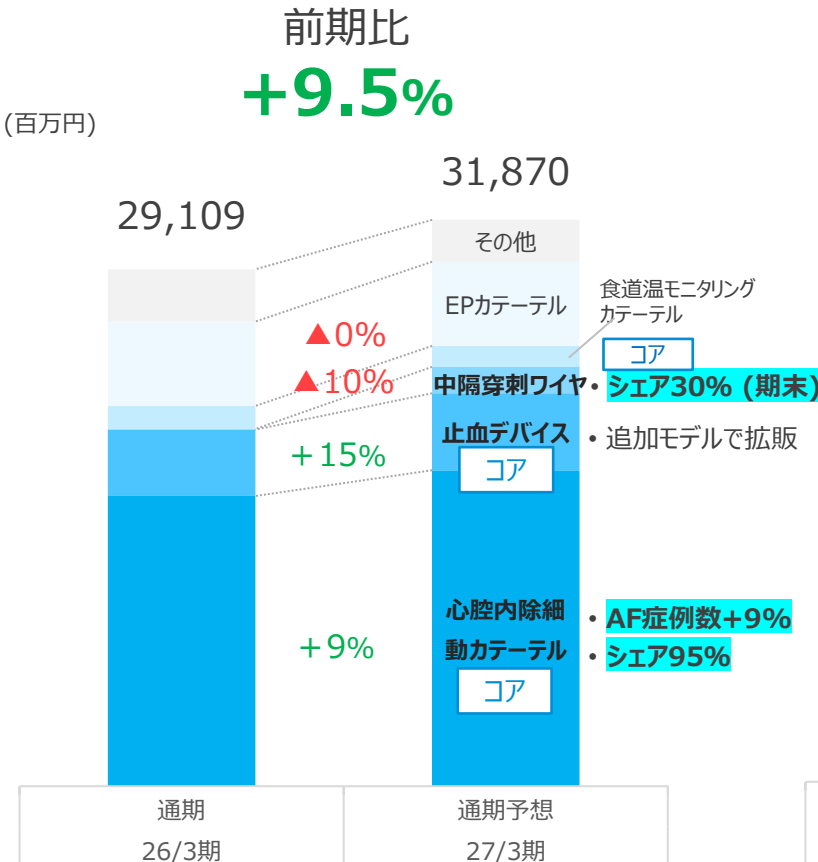
ペースメーカーの逆風を
S-ICDでカバー



EP/アブレーション



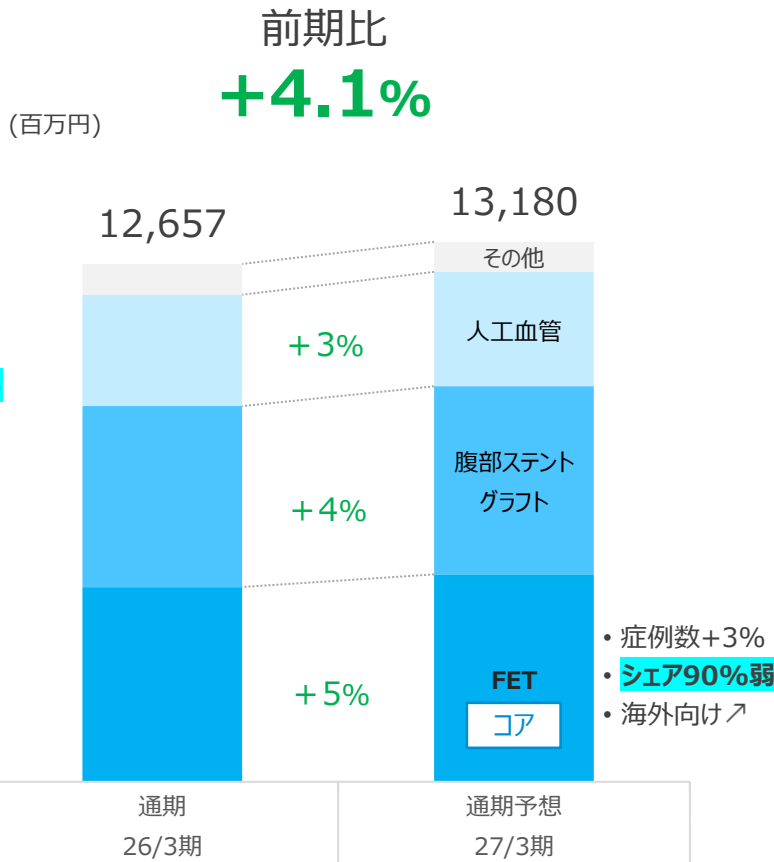
市場の高成長継続、
中隔穿刺ワイヤの市場浸透



心血管関連



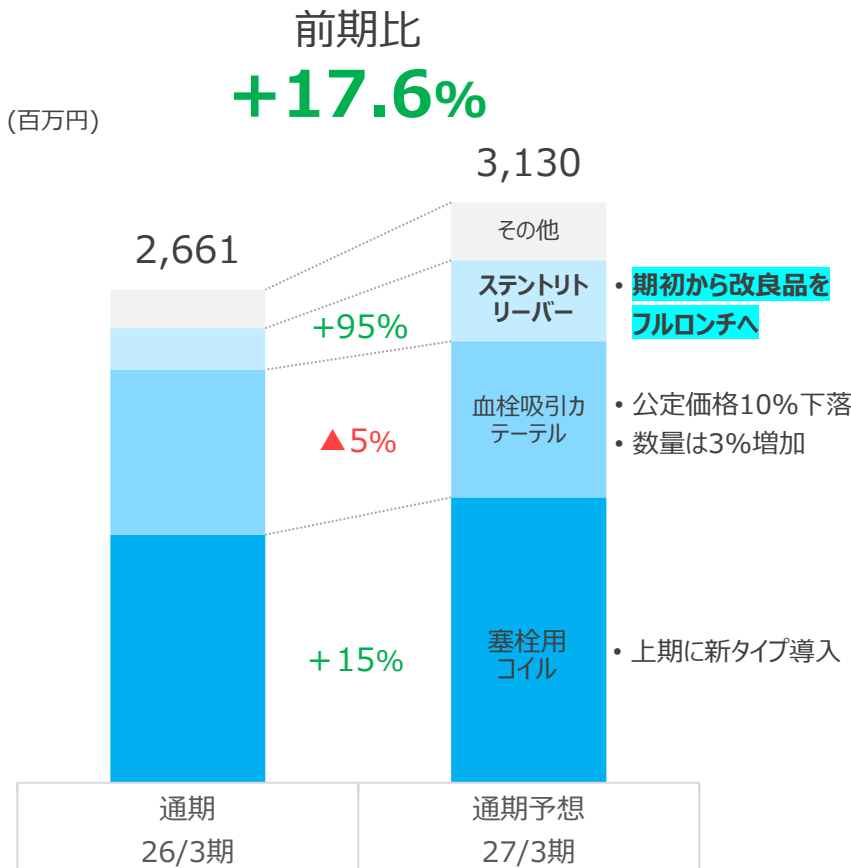
安定成長



脳血管関連



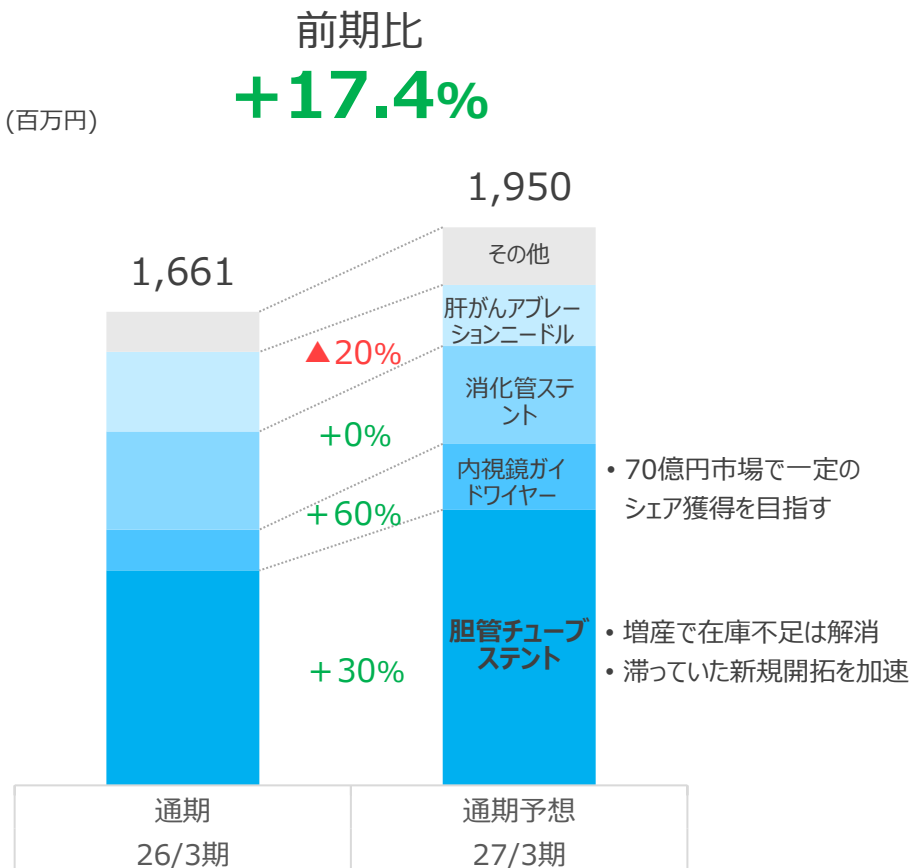
ステントリトリバーが
次の成長ドライバー



消化器

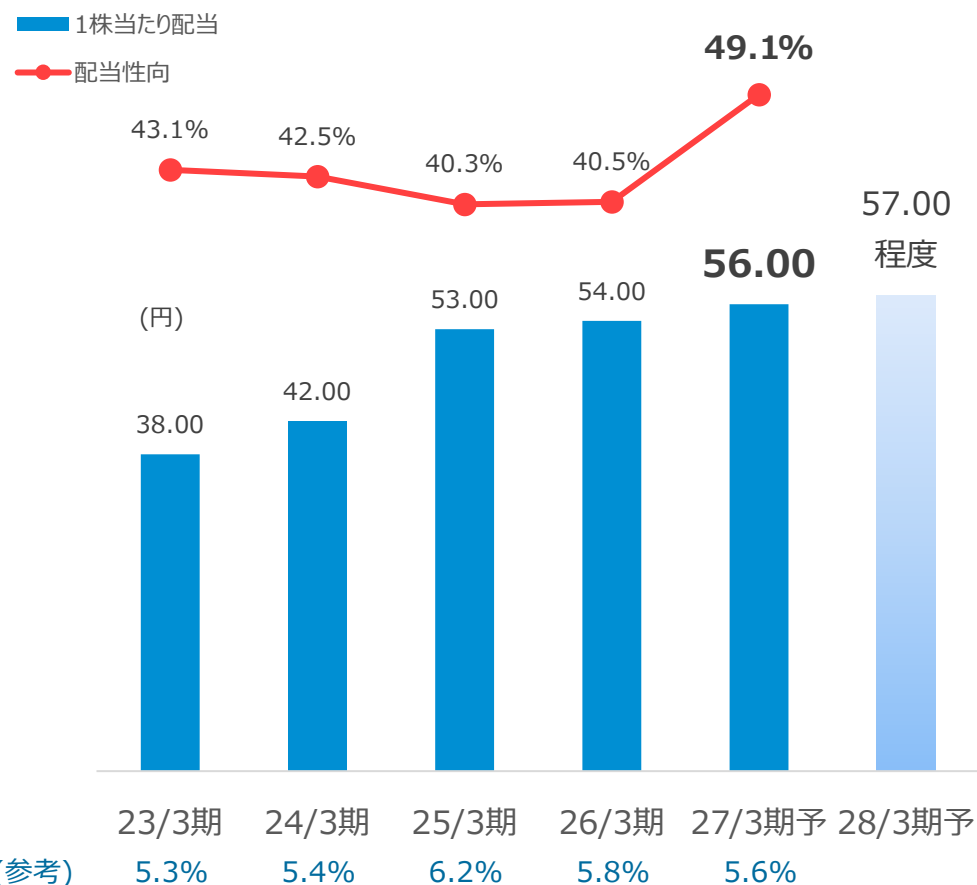


新規開拓を加速

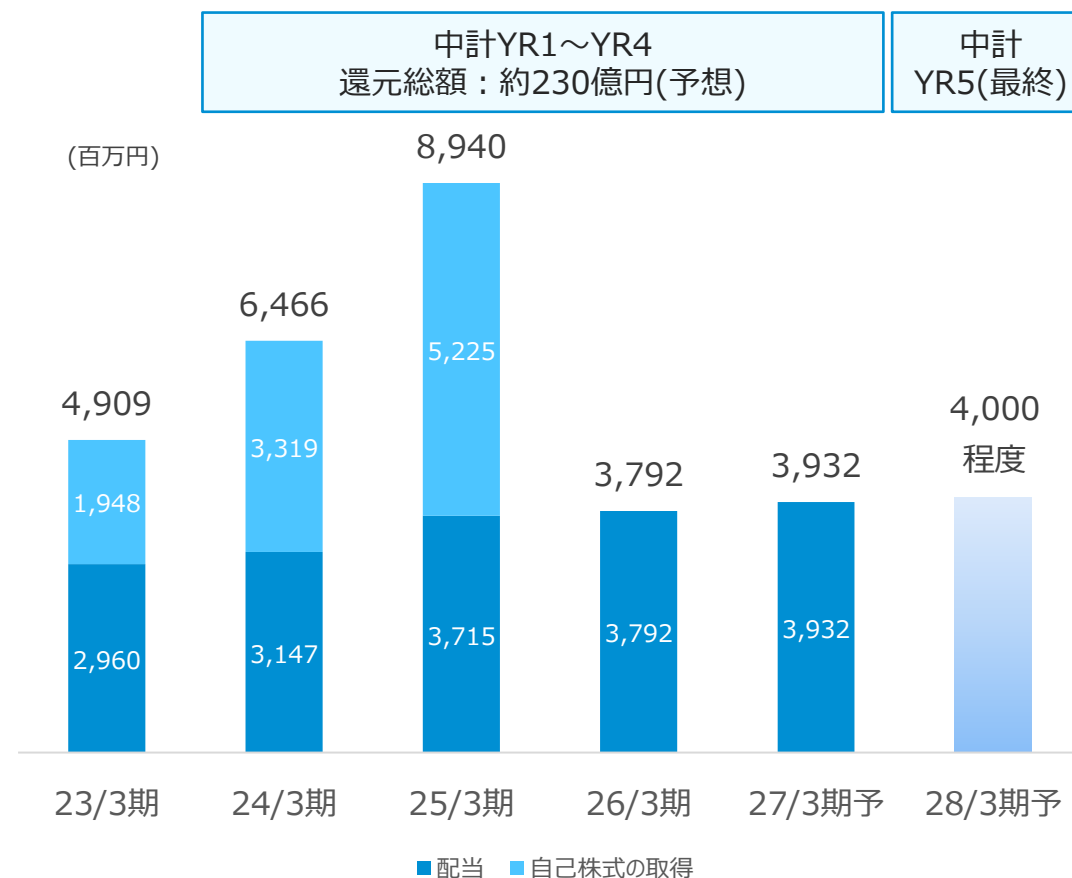


- ✓ 27/3期の1株当たり配当は、現行の配当方針*¹を上回る56円(前期比+2円)を予想
⇒ 28/3期も5年間の還元目標270～300億円を意識した水準とする見通し

1株当たり配当額と配当性向



株主還元の推移(配当額 + 自己株式の取得)



*1 ベース配当は配当性向40%または株主資本配当率(DOE) 5.0%のいずれか高い方を基準とする。状況に応じて、配当の追加または自己株式取得で還元の上乗せを検討する

1. 2026年3月期 通期実績
2. 2027年3月期 通期予想
- 3. 中期経営計画の進捗**
4. 質疑応答

Appendix 1 補足資料

Appendix 2 インベスターズガイド(サマリー版)

[こちら](#)でファクトシート(Excel/PDF)も開示しておりますので、ぜひご利用ください

- ✓ 世界規模でのインフレリスクが顕在化しつつあり、利益圧迫のおそれ
- ✓ 高齢化で医療需要のさらなる高まりは追い風。一方、供給サイドに持続可能性のリスクあり
- ✓ PFAや血管内治療など、治療トレンドは常に変化 ⇒ ビジネスチャンスに変えていく

項目	業績影響	外部環境認識	実行中の打ち手
経済	やや逆風	(-) マクロ経済要因からもたらされる円安・インフレ ⇒ 価格転嫁が困難な業界構造で 利益圧迫	- 賃上げを図りつつ業務効率を改善 - グローバル戦略の推進 (国内オンリーリスクの分散)
社会	追い風	(+) 高齢者の基調的な増加 (±) 外科から 血管内治療へのシフト が進む (-) 医療供給体制のひっ迫	- 血管内治療のプロダクト強化 - 医療効率化に貢献する製品探索
技術	追い風・逆風 両面あり	(+) 再生医療技術の進歩 (-) 新たな不整脈治療技術の浸透 (PFA) ⇒ 一部の既存製品が影響を受ける	- Heartseed社との協働・提携 - PFA関連の自社製品の開発
政治	逆風(縮小)	(+) 公定改定の 下落幅縮小 (26/6改定)	価格競争の回避、製品改良

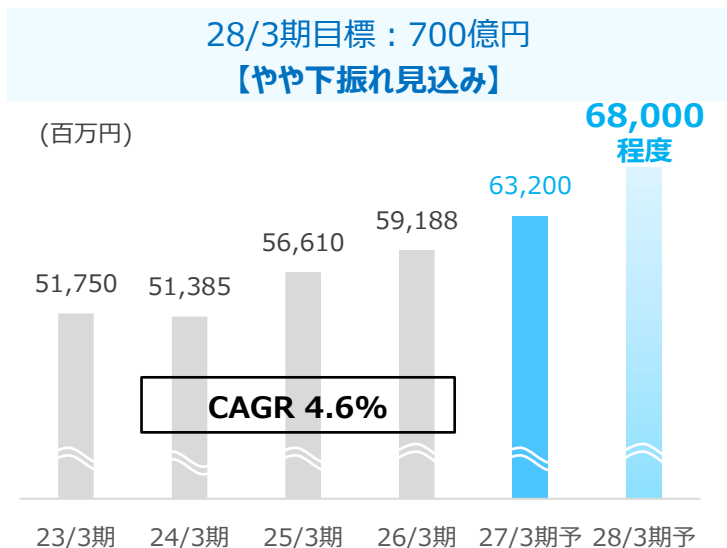
✓ おおむね順調に進むが、構造的心疾患や消化器の進捗に遅れ

事業		当面の戦略	進捗 (26/3時点)	評価
既存領域	EP/ アブレーション	・ ニッチトップシェアの継続	・ 除細動カテーテルで 95%シェア継続 ・ 止血デバイスの浸透は想定超	◎
		・ PFAに適応した製品改良、パイプライン開発	・ 中隔穿刺ワイヤ(自社製品) を2026/3に上市済み ・ M&A案件の探索に継続的に取り組む	○
	心血管関連	・ ニッチトップシェアの継続	・ Frozen Elephant Trunkは 90%シェアを継続	○
		・ 「トータル・ポートフォリオ戦略」の追求	・ 胸部ステントグラフト (仕入) の導入準備が進捗中	○
新領域	消化器	・ 胆膵領域で自社カテーテル技術を活かしたユニークな自社製品を上市	・ 胆管チューブステントは成功を収める一方、胆道鏡は中国メーカーの新規参入等を受け、撤退 ・ 事業全体として、当初目標には未達	△
	脳血管関連	・ 脳血管内治療でトータル・ポートフォリオ (仕入品) を展開	・ 上市済み製品は順調に拡大 ・ フローダイバーター治験登録完了 (26/3)	○
	構造的心疾患	・ 弁膜症治療 (TAVI) へ参入 (仕入品)	・ 薬事戦略の見直しにより、 上市時期が大幅に遅れる見通し	×
グローバル		・ フェーズ 1 : 中東アジア地域への進出	・ 順調に新規の国と代理店を開拓中	○
		・ フェーズ 2 : 米国承認取得に向けた準備	・ FDA基準に適合するグローバルQMS体制を構築中	○
OEM		・ 自社R&Dと製造機能をOEMにも転用	・ 再生医療のHeartseed社と協業・提携が進捗中 ・ マレーシア工場で OEM製造移管 が進捗中	○

財務KPIの進捗/見通し①（売上高・営業利益）

✓ 売上高はおおむね順調。営業利益は27/3期をボトムに上向く公算

売上高



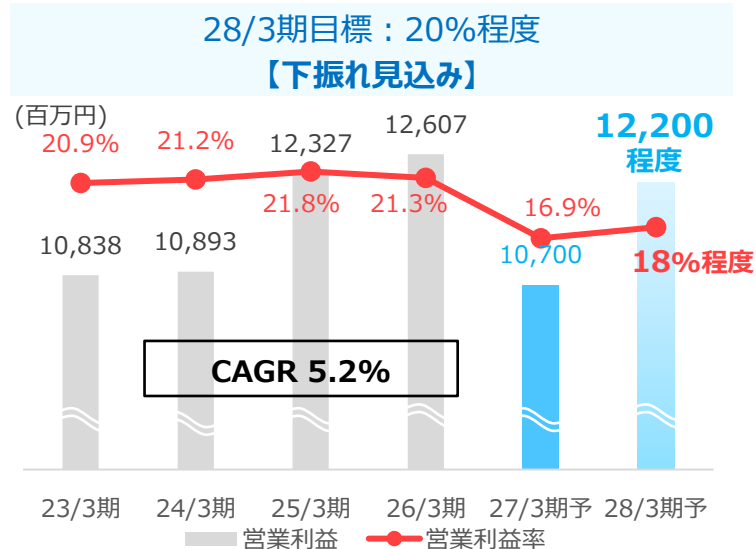
振り返り

- 中計3年目までで、CAGR4.6%の堅実な成長を達成
- EP/アブレーションや脳血管関連がけん引

見通し

- 27/3期は前期比6.8%の増収を見込む
- 中計最終年(28/3期) 700億円目標は維持**
⇒ 経カテーテル生体弁(TAVI)の薬事ストラテジーに変更あり、
上市が大幅に遅れる見込みだが、**EP/アブレーションの自社製
品(中隔穿刺ワイヤ等)で一定のカバーを見込む**

営業利益



振り返り

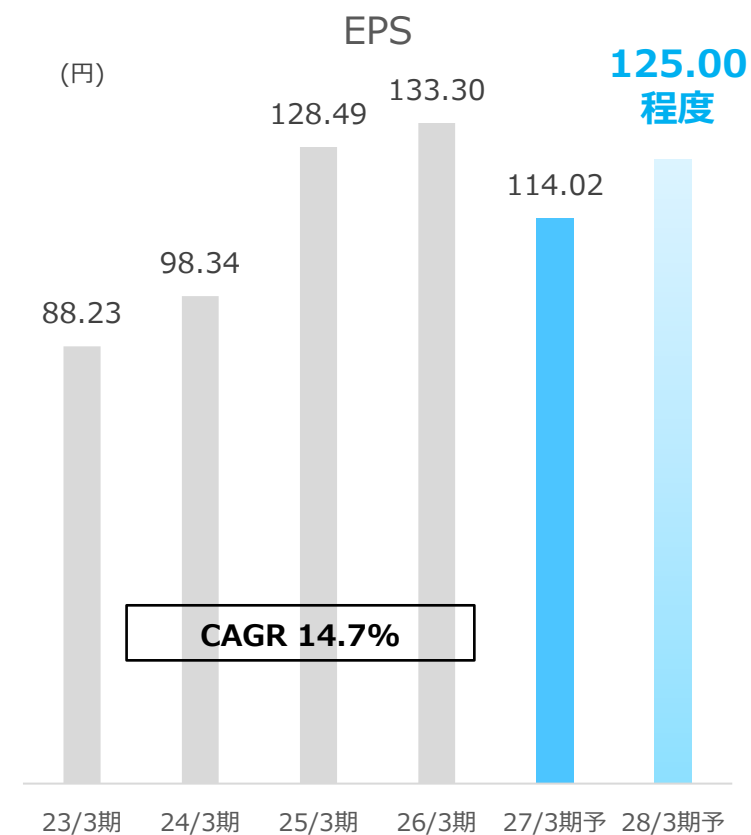
- 中計3年目までで、CAGR5.2%を達成
⇒ 高収益な自社製品が成長し、粗利率が改善

見通し

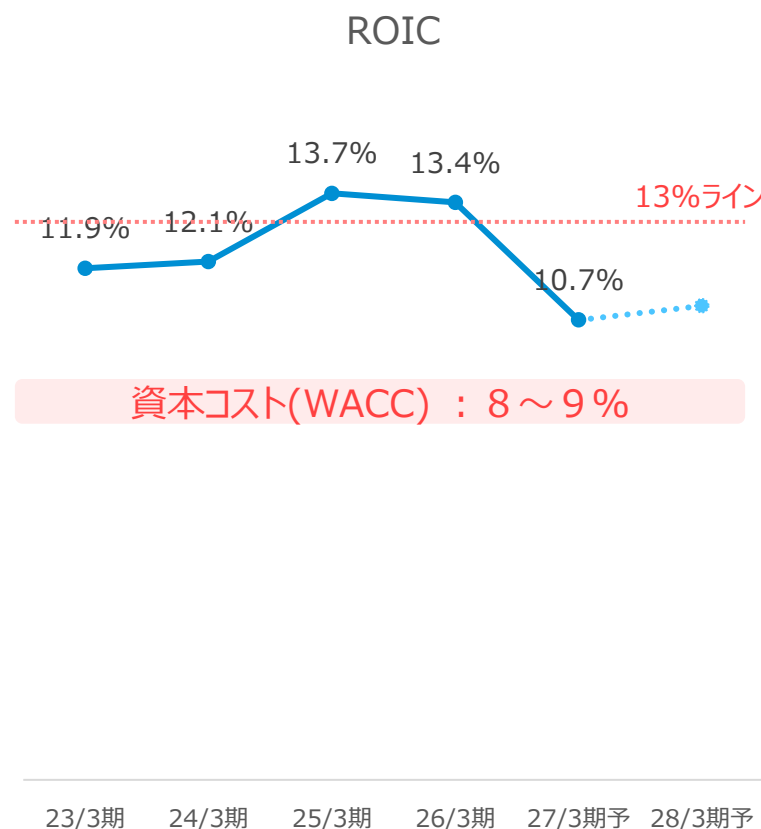
- 27/3期は成長投資を加速。さらに、インフレによるコスト増や本社移転費用等の一過性要因も重なるため減益
- 28/3期も一定のコスト増要因は残るが、**トップラインの成長と一過性要因の消失により、大きく増益となる見込み**

財務KPIの進捗/見通し② (EPS・ROIC)

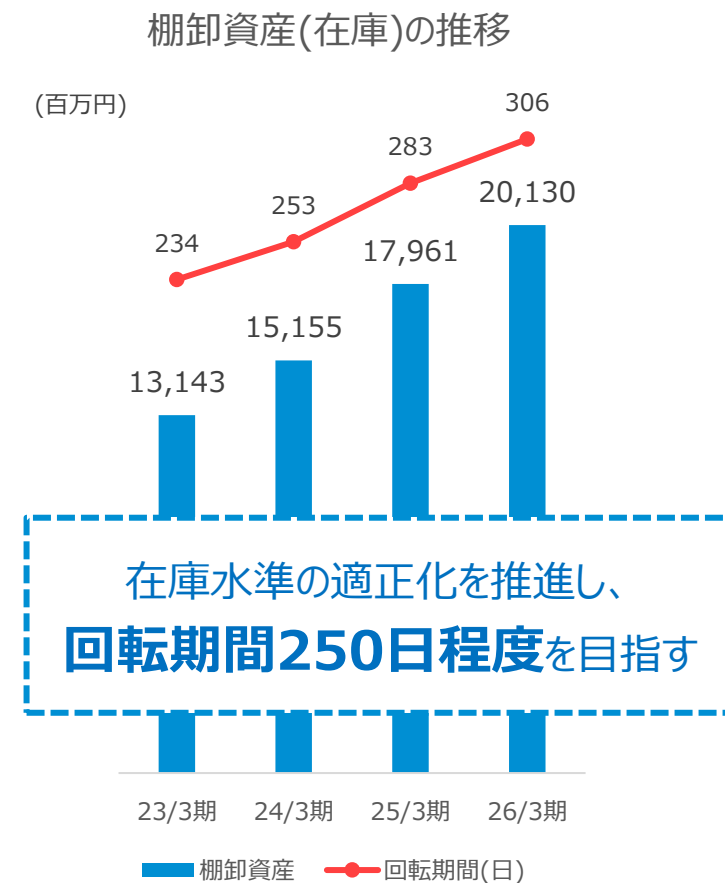
- ✓ 利益率の悪化により、EPSとROICは28/3期目標値を下回る見込み
- ✓ 資本効率の観点からは、とくに**在庫水準の適正化**を重要課題と認識し改善に取り組む



28/3期目標 : 145円
【下振れ見込み】

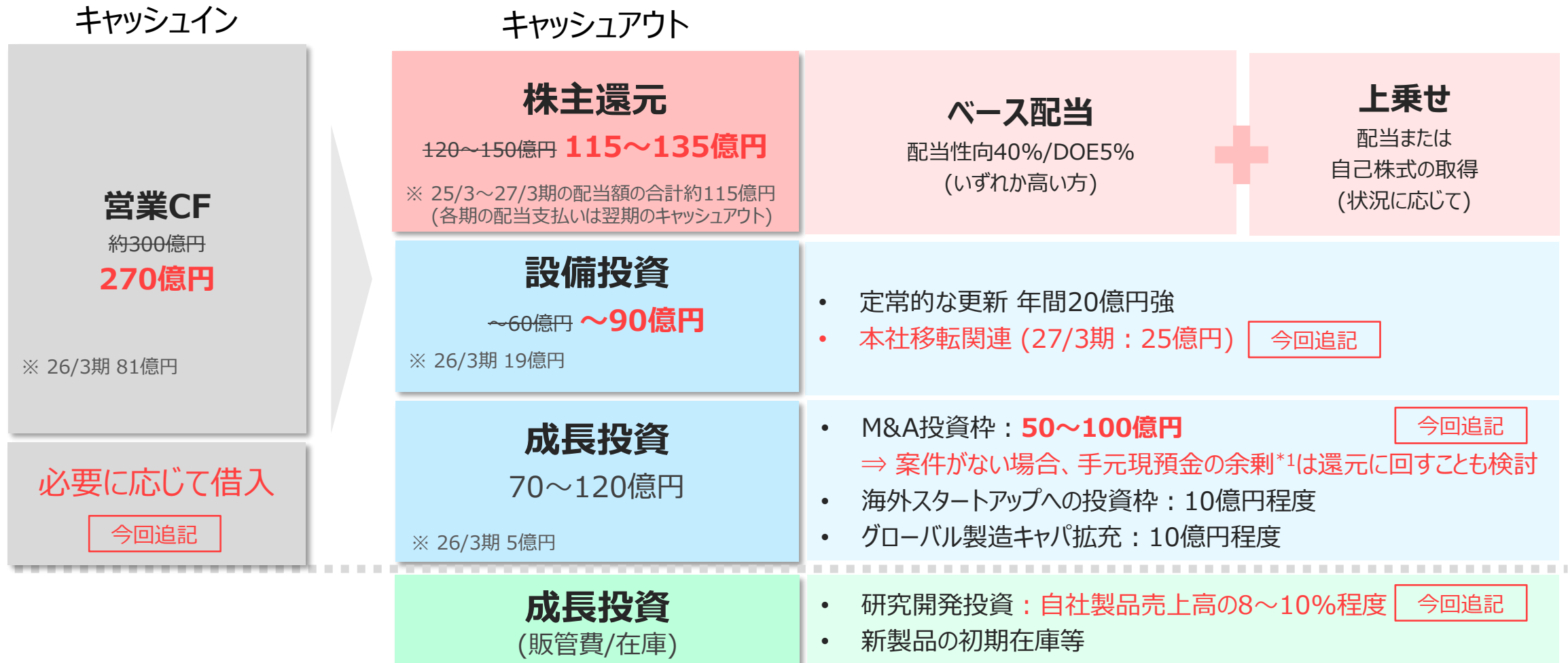


28/3期目標 : 13%
【下振れ見込み】



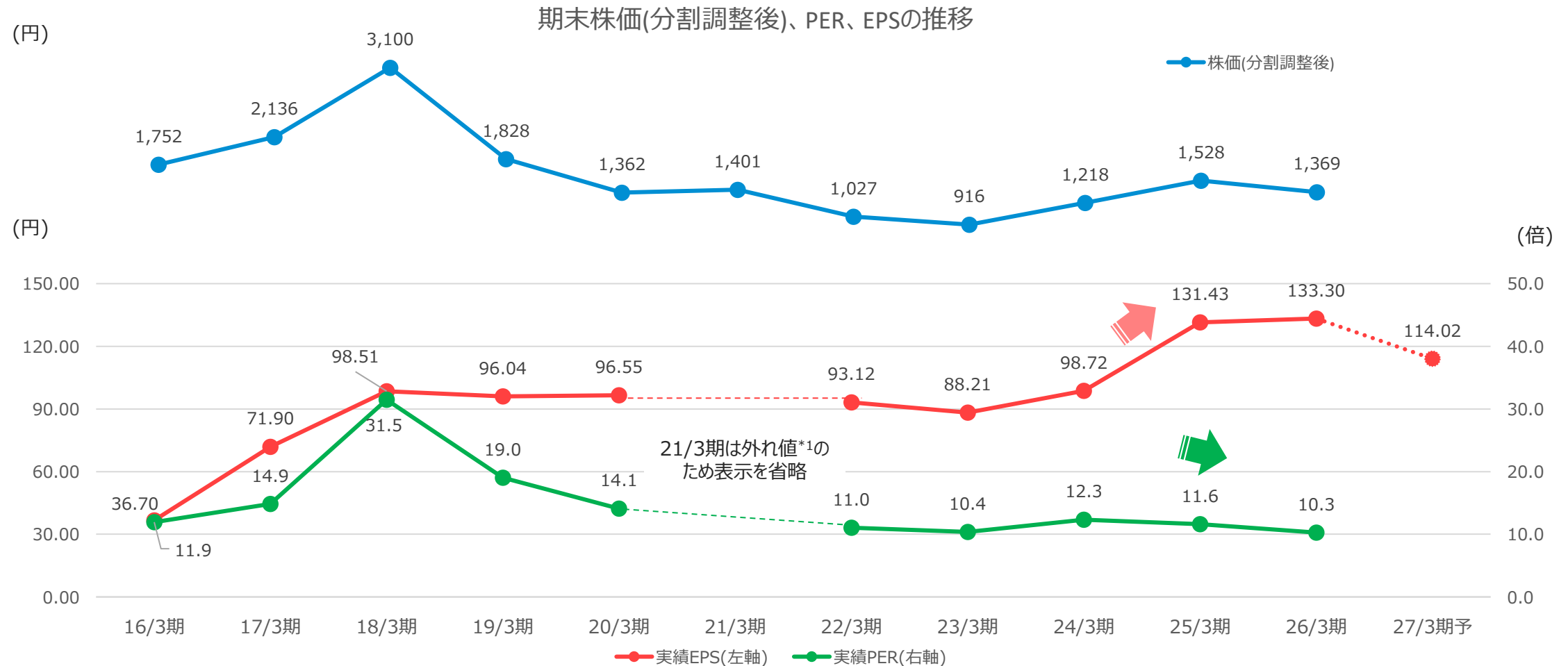
✓ 成長投資の大部分を営業CFで賄う方針は変更ないが、今後案件次第で借入も柔軟に検討

2026/3期～2028/3期 のキャッシュフローのイメージ



*1 100億円を超える分を「余剰」と定義する。ただし、30億円程度はM&A待機資金等のバッファとみなし、バッファを超える分について積極的に還元を検討する

- ✓ 22/3期以降、PERは10倍台前半で推移。**中長期での成長期待を醸成**し、グローバルへの変革を通じて**市場からの再評価**を目指す



*1 特別損失(貸倒引当金繰入等)を計上。PER56.2倍、EPS24.90円

- ✓ EPS成長を株価の上昇に結び付ける。将来的に、「**グローバル医療機器メーカー**」として**市場平均以上の評価をいただくこと**を目標として、事業活動とIR活動を推進



^{*1} HOYA、テルモ、富士フイルム、オリンパス、シスメックス、島津製作所、朝日インテック、日本光電、ニプロ、マニーの10社

1. 2026年3月期 通期実績
2. 2027年3月期 通期予想
3. 中期経営計画の進捗
- 4. 質疑応答**

Appendix 1 補足資料

Appendix 2 インベスターズガイド(サマリー版)

[こちら](#)でファクトシート(Excel/PDF)も開示しておりますので、ぜひご利用ください

1. 2026年3月期 通期実績
2. 2027年3月期 通期予想
3. 中期経営計画の進捗
4. 質疑応答

Appendix 1 補足資料

Appendix 2 インベスターズガイド(サマリー版)

[こちら](#)でファクトシート(Excel/PDF)も開示しておりますので、ぜひご利用ください

2026/3期 Q4(1～3月) 連結P/L

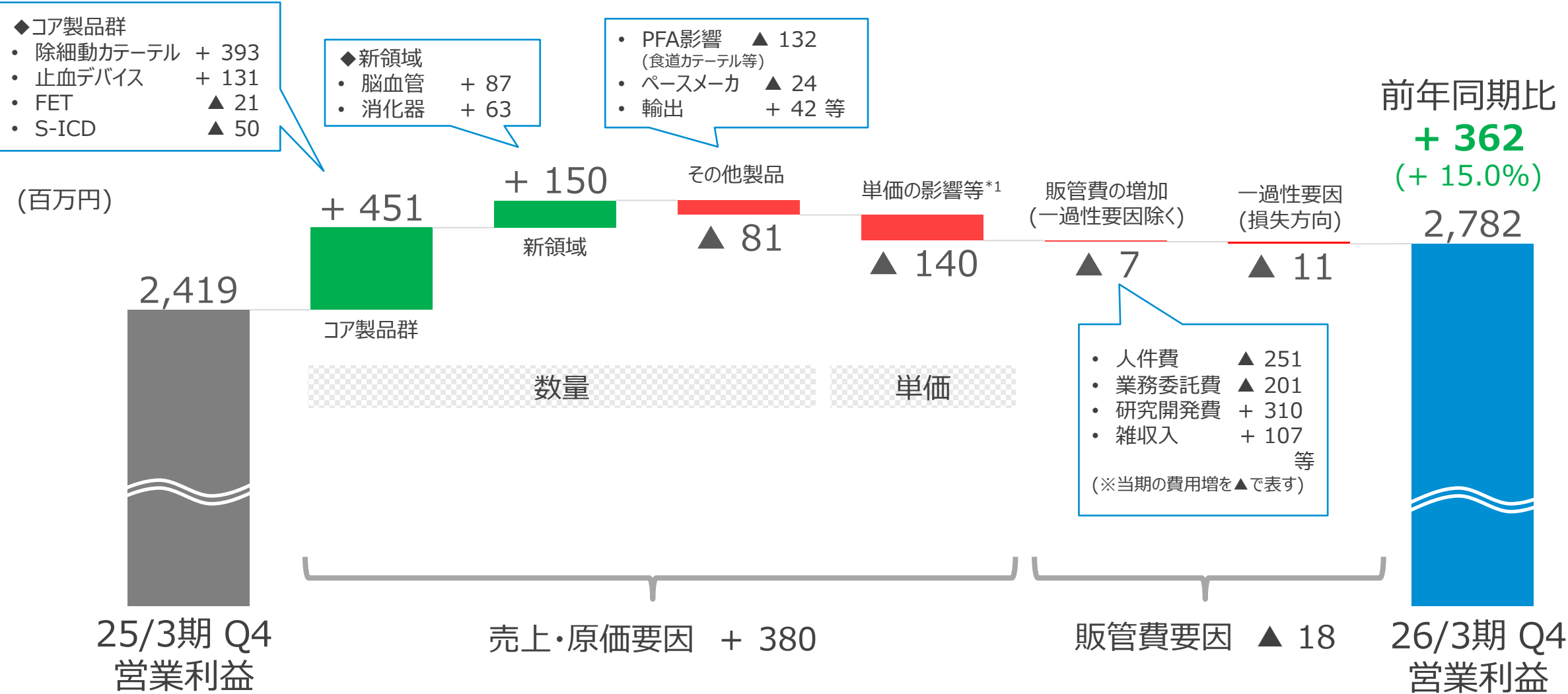
✓ 売上高・売上総利益・純利益においてQ4として過去最高を更新

(百万円)	2025/3期 Q4	2026/3期 Q4	前年同期比		コメント
			金額	比率	
売上高	13,799	過去最高 14,782	+ 983	+ 7.1%	(+) 症例増による数量増加 (+) 新領域の拡大
売上総利益	8,280	過去最高 8,661	+ 380	+ 4.6%	(-) 他社RFニードルの販売支援終了 (2025/12) → 自社製品販売への転換 (2026/3～)
%	60.0%	58.6%		▲ 1.4pp	(-) 製品ミックス変化
販管費	5,860	5,879	+ 18	+ 0.3%	次ページで詳細説明
営業利益	2,419	2,782	+ 362	+ 15.0%	次ページで詳細説明
%	17.5%	18.8%		+ 1.3pp	
純利益*1	2,246	過去最高 2,529	+ 282	+ 12.6%	(+) 前年同期に固定資産除却損計上
%	16.3%	17.1%		+ 0.8pp	
自社製品比率	56.7%	57.5%		+ 0.8pp	仕入商品: +4.9%増収 (脳血管、止血デバイス等)
海外売上高比率	1.7 %	2.4%		+ 0.7pp	自社製品: +8.3%増収 (心腔内除細動カテーテル等)
基礎的1株当たり利益	32.05円	36.05円	+ 4.0円	▲ 12.4%	

*1 親会社株主に帰属する四半期純利益

2026/3期 Q4(1～3月) 営業利益の増減分析

✓ コア製品と新領域が好調に推移し、増益

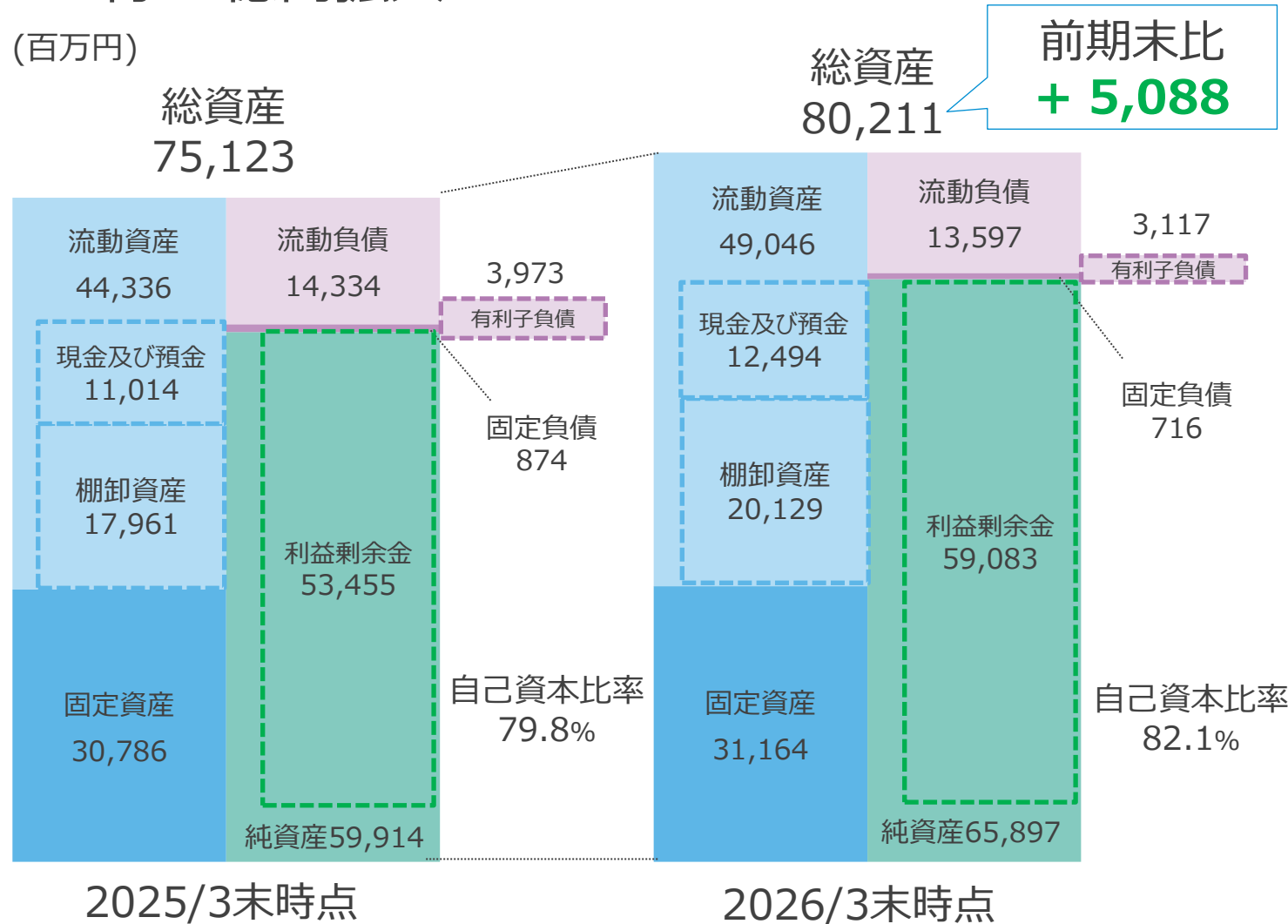


*1 主な内訳は販売単価や原価の増減の影響。製品廃棄・評価損の影響等を含む

2026/3期 B/Sサマリ（対前期末）

✓ 事業成長を支えるための在庫や生産設備への投資により、バランスシートは前期比で約50億円拡大

(百万円)



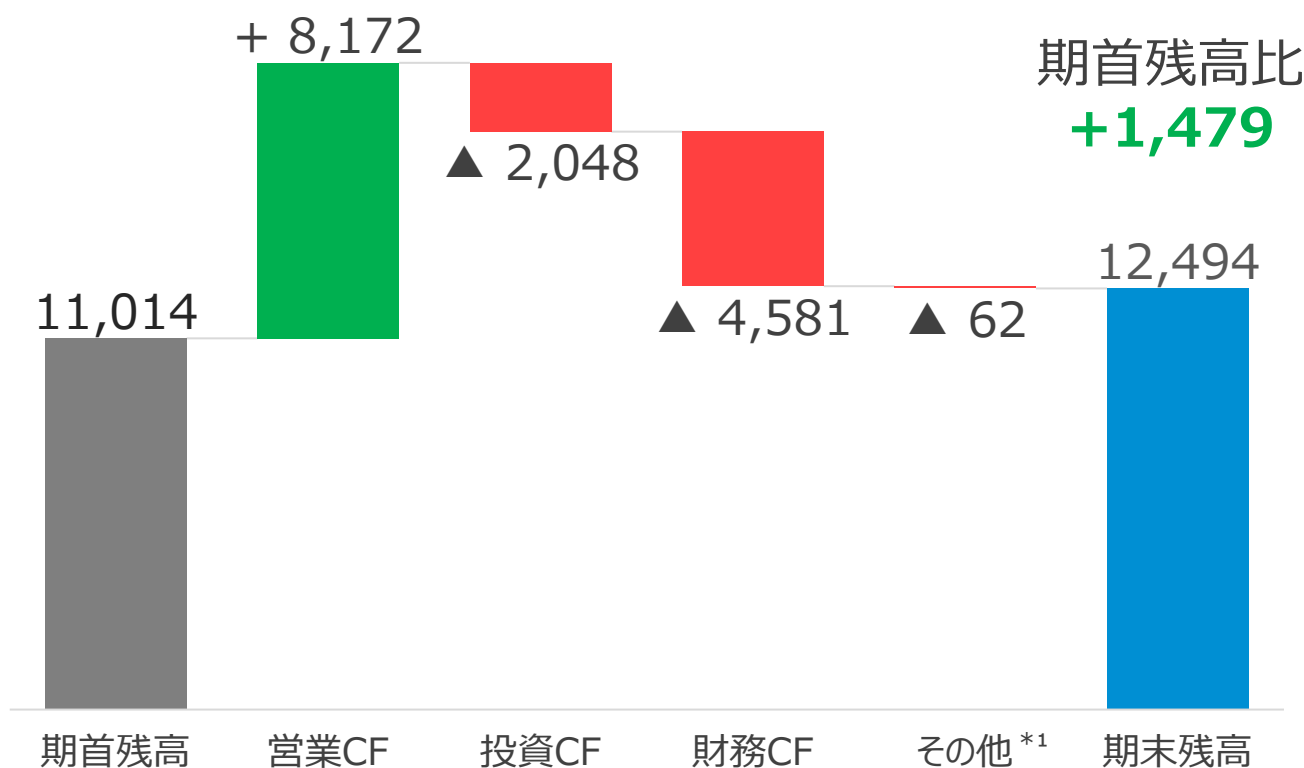
前期末からの変動の主な項目(百万円)

流動資産	前期末比 +4,710
・ 棚卸資産	+ 2,168 …販売の拡大
・ 売上債権	+ 720 … "
・ 現金及び預金	+ 1,479
固定資産	前期末比 +378
・ 建物・設備等*1	+ 626 …クリーンルーム工事等
・ 繰延税金資産	+ 310
・ 敷金・保証金	+ 285 …本社移転関連
・ 長期前払費用	▲458 …仕入契約金償却
・ 無形固定資産	▲345
流動負債	前期末比 ▲736
・ 短期借入金	▲600
・ 1年以内長期借入金	▲120
固定負債	前期末比 ▲158
・ 役員株式報酬引当金	▲78
・ 有利子負債(長期)	▲47
・ 長期未払金	▲34
純資産	前期末比 +5,983
・ 利益剰余金	+ 5,627
（うち 当期利益+ 9,350、配当▲3,722）	

*1 建物、構築物、建物付属設備、機械及び装置、車両及び運搬具、器具及び備品、一括償却資産、リース資産、建設仮勘定

✓ 期末時点で、現金及び現金同等物は、期首残高から1,479百万円増加

（百万円）



■ 営業CF +8,172百万円

（百万円）

【増 加】	税金等調整前当期純利益	+ 12,377
	減価償却費	+ 1,656
【減 少】	法人税等の支払額	▲ 3,276
	棚卸資産の増加	▲ 2,164
	売上債権の増加	▲ 714

■ 投資CF ▲2,048百万円

【増 加】	投資有価証券の売却	+ 765
【減 少】	有形固定資産の取得	▲ 1,900
	投資有価証券の取得	▲ 557

■ 財務CF ▲4,581百万円

【減 少】	配当金の支払	▲ 3,725
	有利子負債の返済	▲ 720

*1 現金及び現金同等物に係る換算差額

事業環境 現時点から6か月先の見通し

✓ 売上高のYoYベースの見通しを矢印で表す。前回の見通しから変更がある場合は、コメントを赤字で記す

メイン区分	サブ区分	2026/3期 Q4 実績		2027/3期 Q1 予想		2027/3期 Q2 予想	
		営業日数：58 (前期+1)		営業日数：61 (前期▲1)		営業日数：61 (前期▲1)	
リズムデバイス	ペースメーカ関連	↓ 前回：→	(-)他社リードスペースメーカの 影響等	↓ 前回：↓	同左	↓	同左
	ICD関連	↓ 前回：↓	(+)予防的植込で市場拡大 (S-ICD増加) (-)他社新製品	→	(+)予防的植込で市場拡大 (+)他社影響一巡	→	同左
EP/アブレーション	EPカテーテル	↑	(+)AF症例数+9%YoY (+)PFA影響一巡	↗	(+)AF症例数+9%YoY	↗	同左
	その他	↑	(+)止血デバイス拡大 (-)RFニードル販売支援終了 (+)中隔穿刺ワイヤ貢献開始	↑	前Qのコメントに加えて (+)スティラブルシース拡大	↑	同左
心血管関連	人工血管関連	→ 前回：↗	(-)FET市場成長鈍化 (症例数▲3%YoY) (+)腹部ステントグラフト持ち直し	↗	(+)FET安定成長	↗	同左
脳血管関連	脳血管関連	↑	(+)血栓吸引カテ好調 (+)コイル好調	↑	(+)血栓吸引カテ・コイル拡大 (+)ステントリトリバー(不透過 マーカ付きモデル貢献)	↑	(-)血栓吸引カテ 公定価格 ▲10% (+)ステントリトリバー拡大
消化器	消化器 (消化管、胆膵)	↑	(+)胆管チューブステント好調	↑	(+)胆管チューブステント拡大 (+)その他個々の製品伸長	↑	同左
全社		↑		↗	(-)公定価格改定 (26/6~)	↗	(-)公定価格改定

凡例： ↑ or ↓ 1桁後半以上 増加 or 減少 ↗ or ↘ 1桁半ば程度 増加 or 減少 → 1桁半ば未満 増加 or 減少

1. 2026年3月期 通期実績
2. 2027年3月期 通期予想
3. 中期経営計画の進捗
4. 質疑応答

Appendix 1 補足資料

Appendix 2 インベスターズガイド(サマリー版)

[こちら](#)でファクトシート(Excel/PDF)も開示しておりますので、ぜひご利用ください

1. 事業ハイライト

2. 戦略ハイライト

3. 業績ハイライト

◆「インベスターズガイド」とは？

—当社を初めて知る投資家様向けに、事業や戦略のポイントを分かりやすく説明する資料です。

フルバージョンは、[こちら](#)からご覧いただけます。

※ご留意事項

付録のインベスターズガイドは2025/12時点の見通しとして作成されたものの抜粋です。以降のページにおいて、一部の内容は2026年3月期 決算説明のメインページの中で変更・アップデートされていることをご留意ください。

1. 事業ハイライト

2. 戦略ハイライト

3. 業績ハイライト

◆「インベスターズガイド」とは？

—当社を初めて知る投資家様向けに、事業や戦略のポイントを分かりやすく説明する資料です。

フルバージョンは、[こちら](#)からご覧いただけます。



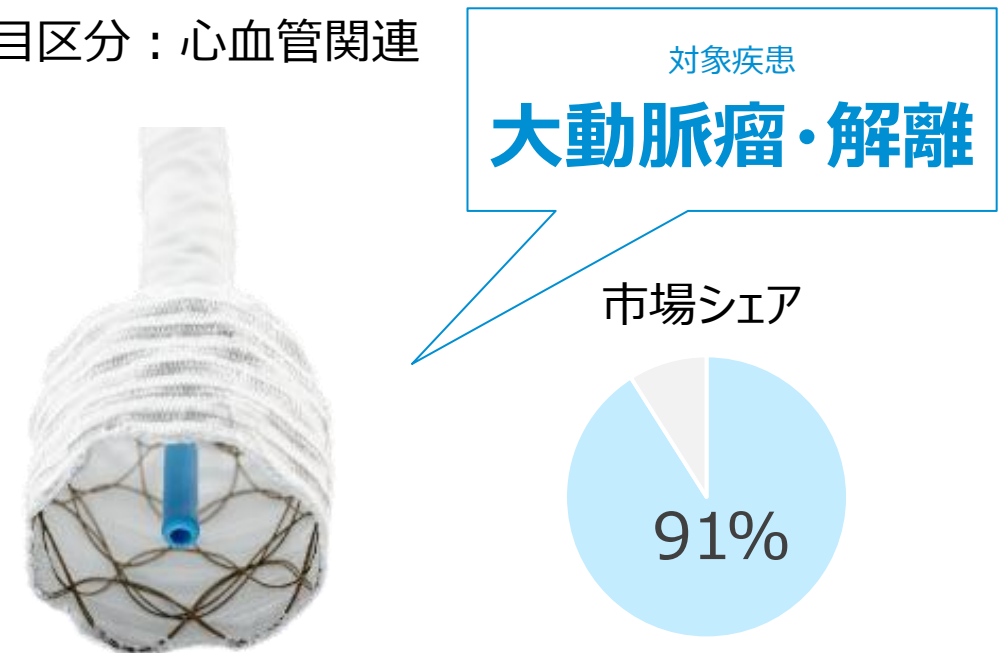
- ✓ 心臓手術の高度管理医療機器に特化した医療機器メーカー
- ✓ 不整脈用の「カテーテル」や外科用の「人工血管」の自社製品でトップシェア

カテーテル
品目区分：EP/アブレーション



No.1製品：心腔内除細動カテーテル
製品名「BeeAT」(びーと)

人工血管
品目区分：心血管関連



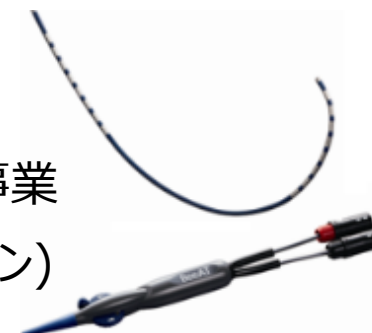
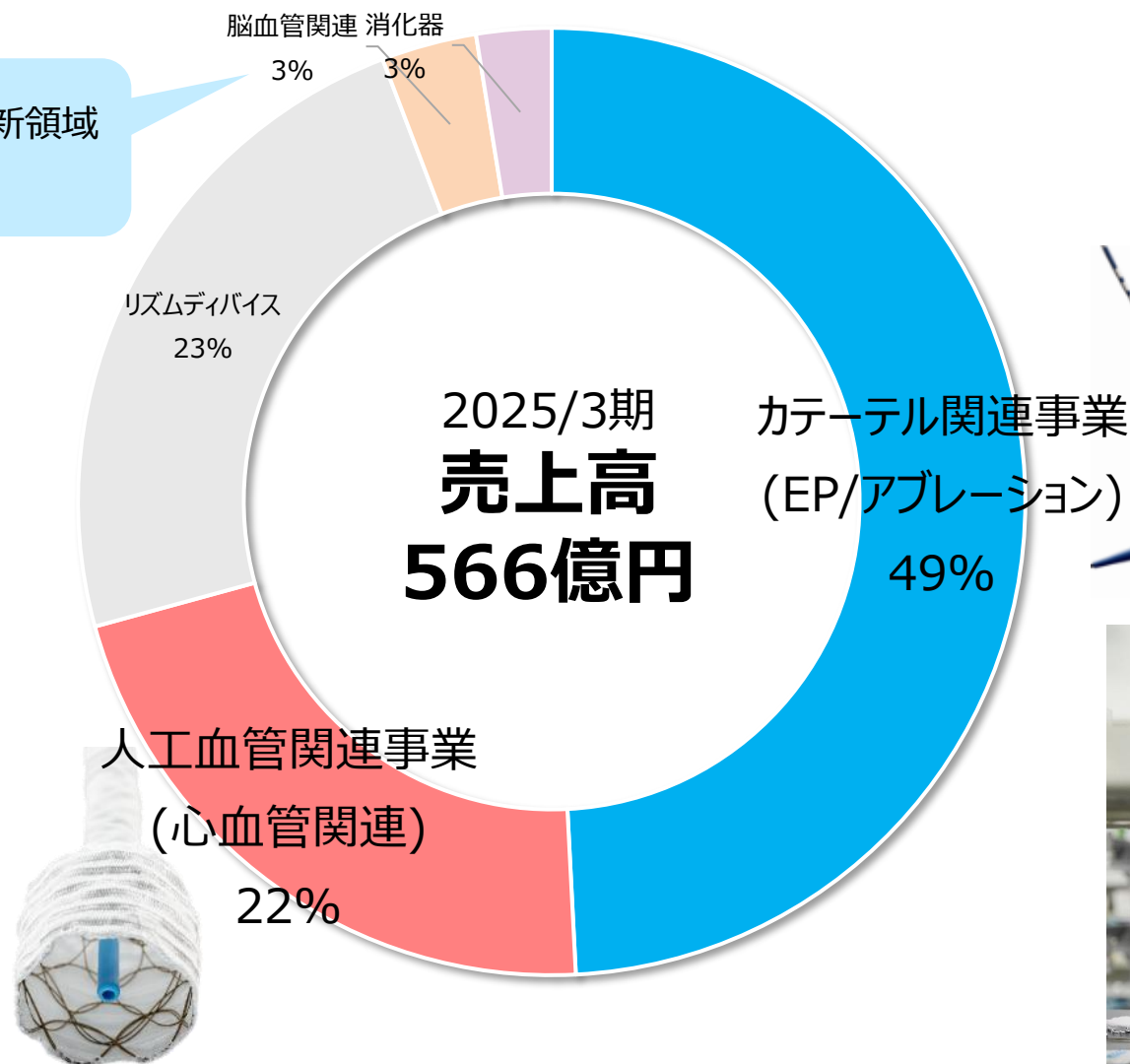
No.1製品：Frozen Elephant Trunk
製品名「FROZENIX」(ふろーぜにくす)

主力事業の売上構成比

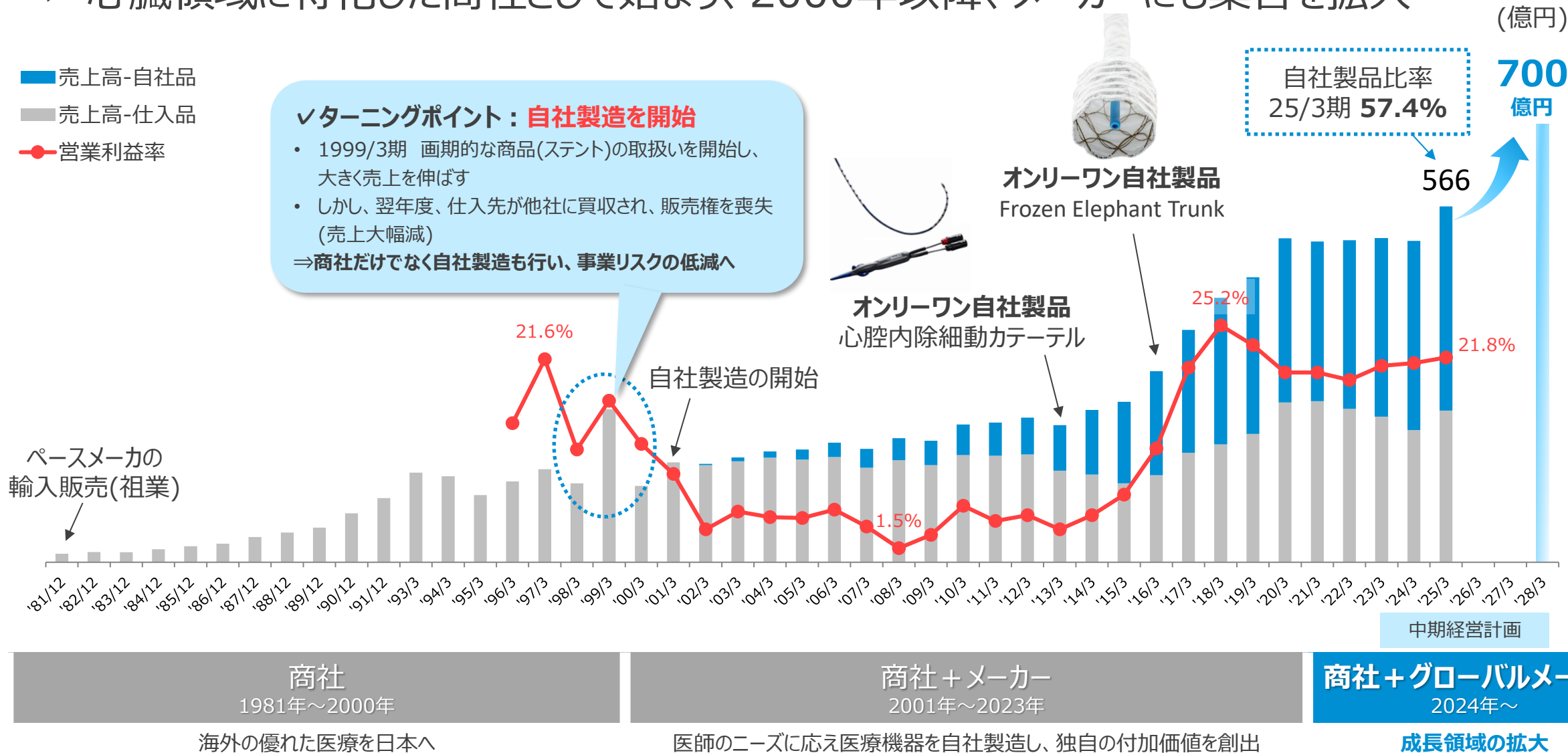
✓ 中核事業と位置付ける「カテーテル」と「人工血管」で売上の約70%を構成

近年は心臓以外の新領域
にも進出中

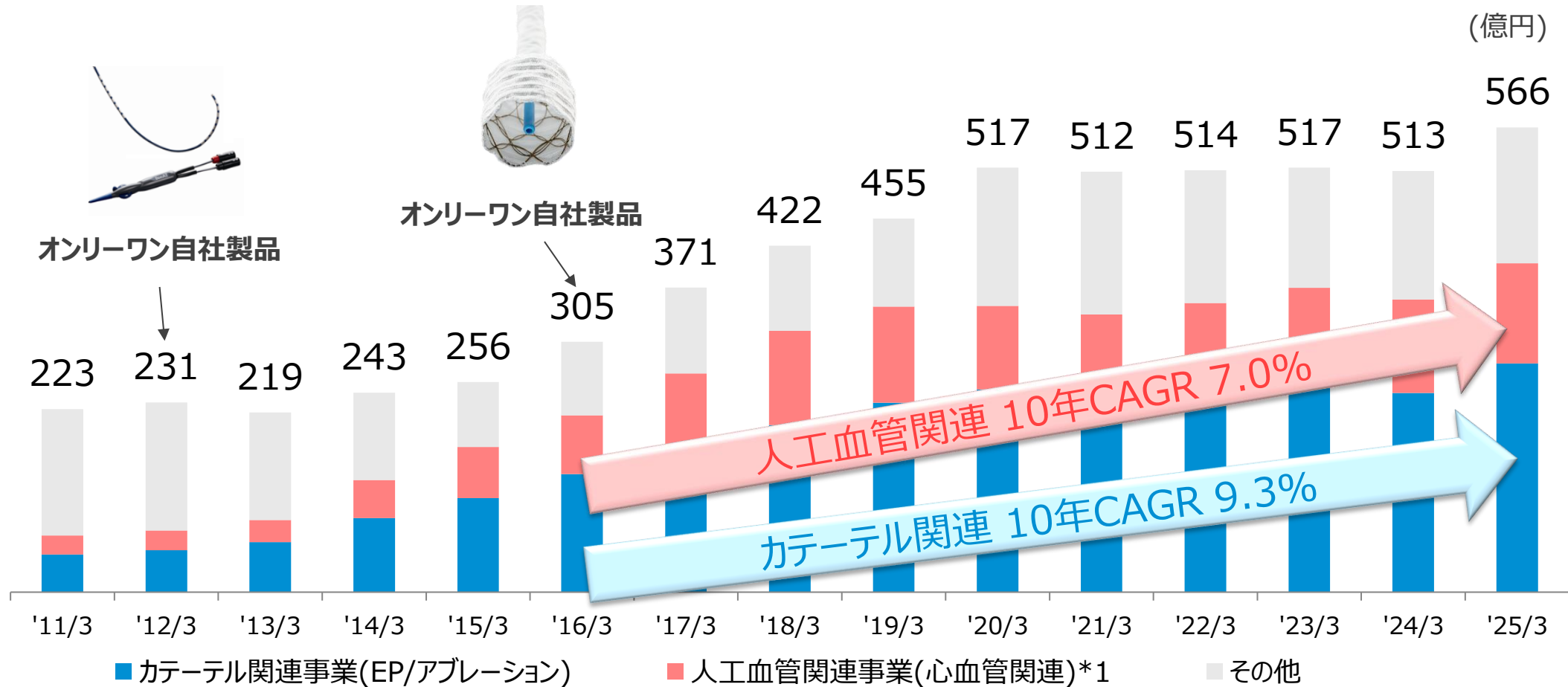
メーカー事業で粗利率70%以上



✓ 心臓領域に特化した商社として始まり、2000年以降、メーカーにも業容を拡大

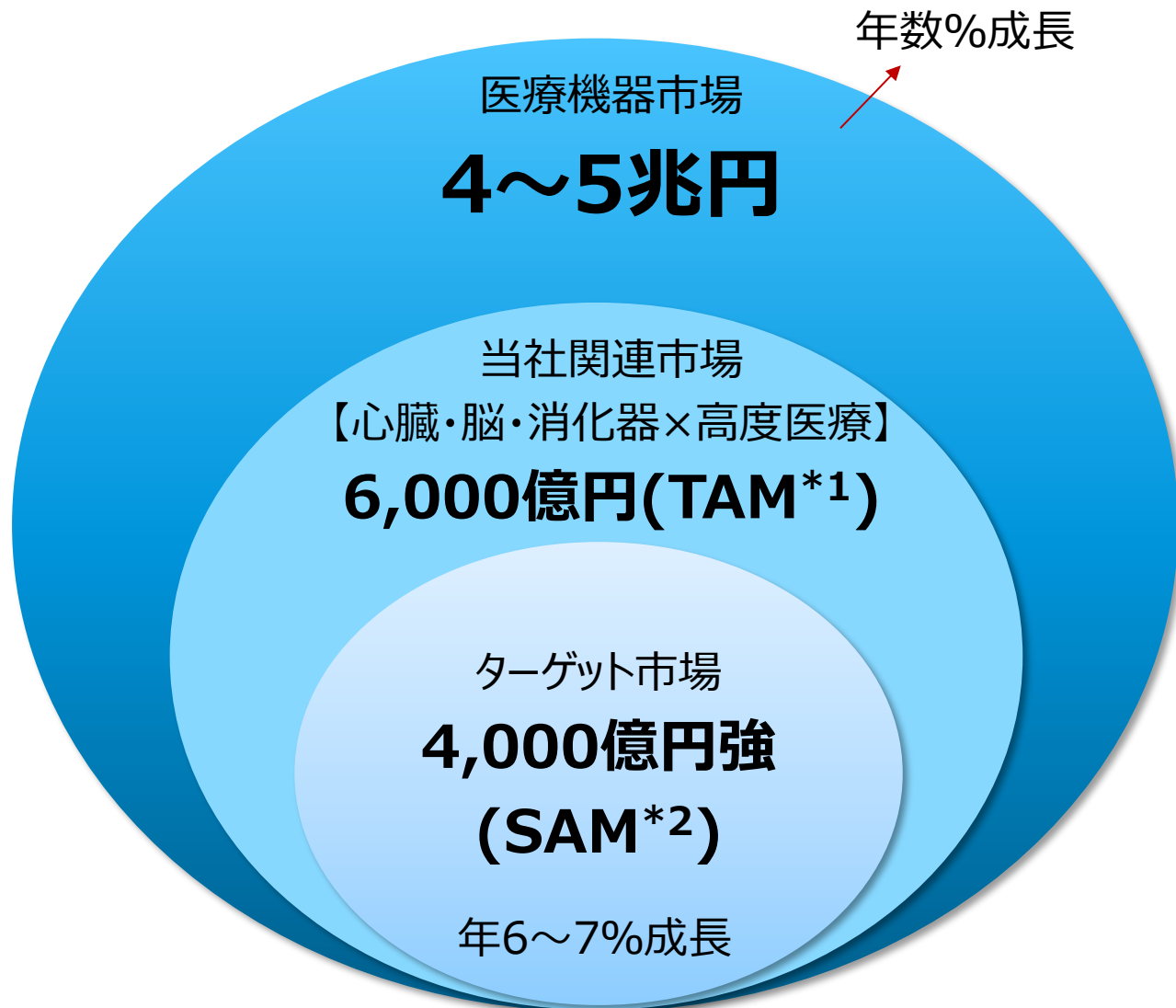


- ✓ 直近10年は、「カテーテル」と「人工血管」の本業が高成長をけん引

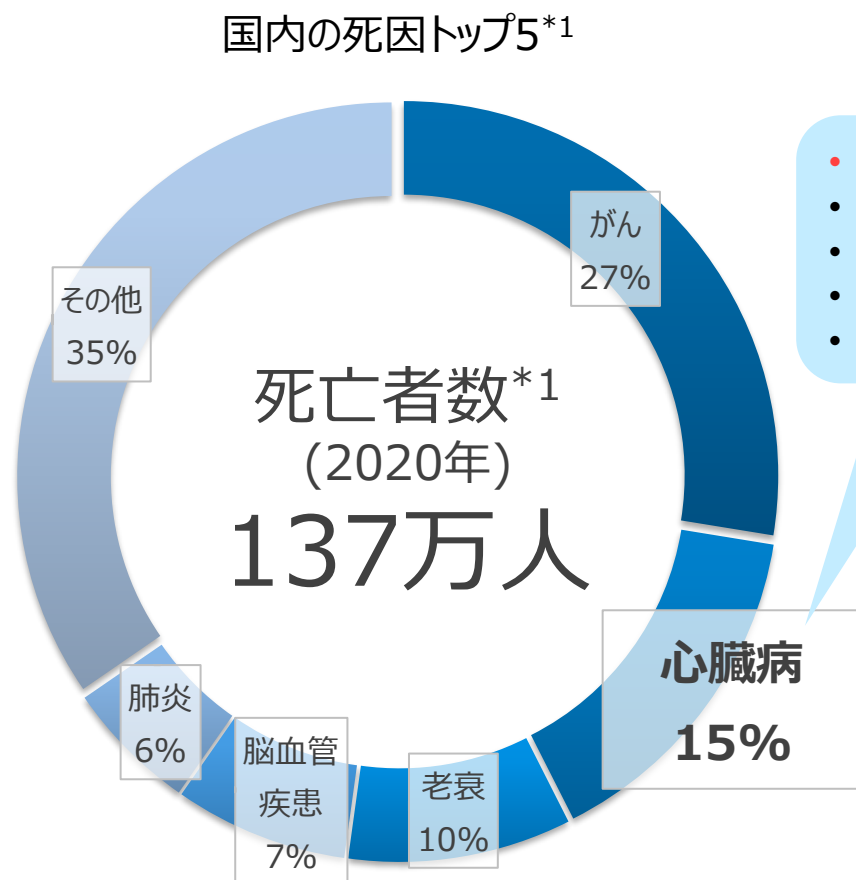


*1 人工弁や人工心肺装置等を含む

- ✓ 関連市場は6,000億円、そのうち自社の強みを活かせる4,000億円の市場をターゲットとする

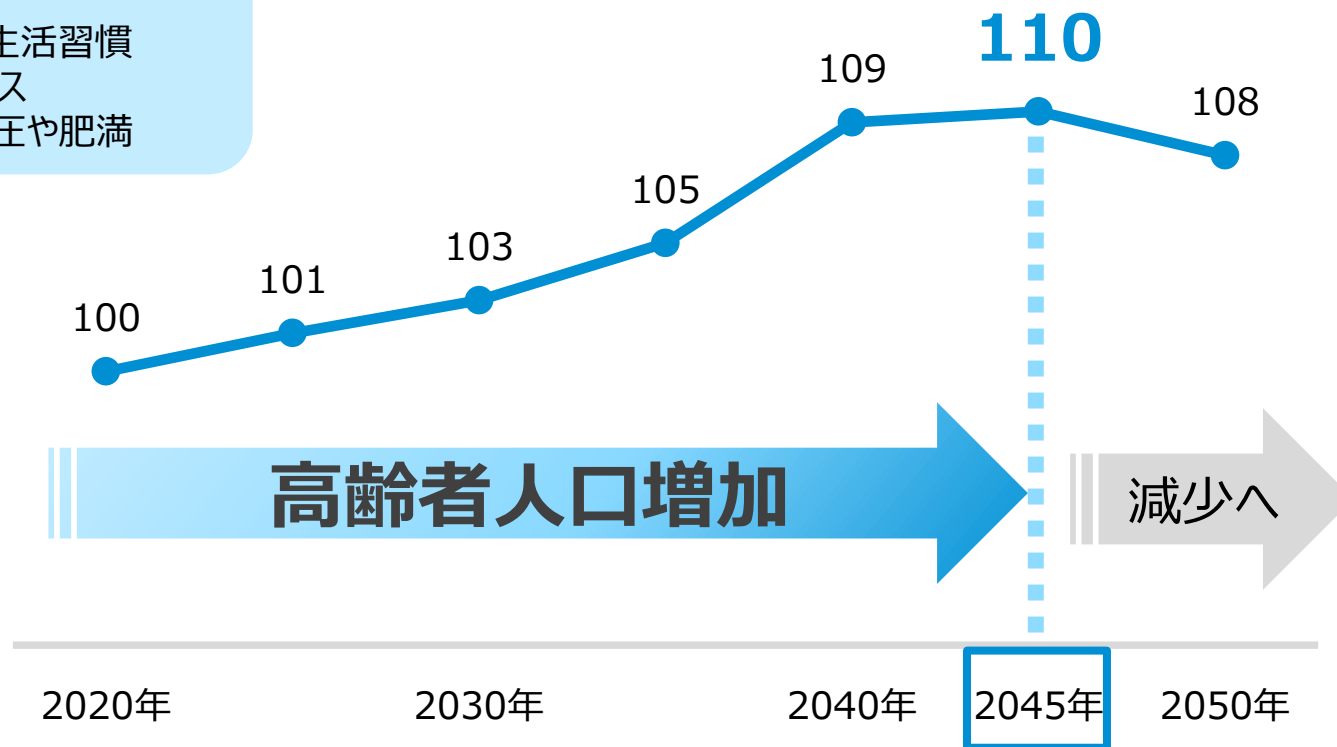


- ✓ 医療機器のマクロ市場環境は「**高齢化**」という強い追い風あり。心臓病関連は持続的な医療需要の増加が見込まれる



- ・ **加齢(最大因子)**
- ・ 喫煙
- ・ 悪い生活習慣
- ・ ストレス
- ・ 高血圧や肥満

65歳以上人口の推移予測
(2020年 = 100として指数化)*2



*1 厚生労働省 令和2年(2020年)人口動態統計

*2 内閣府 令和5年(2023年)版高齢社会白書

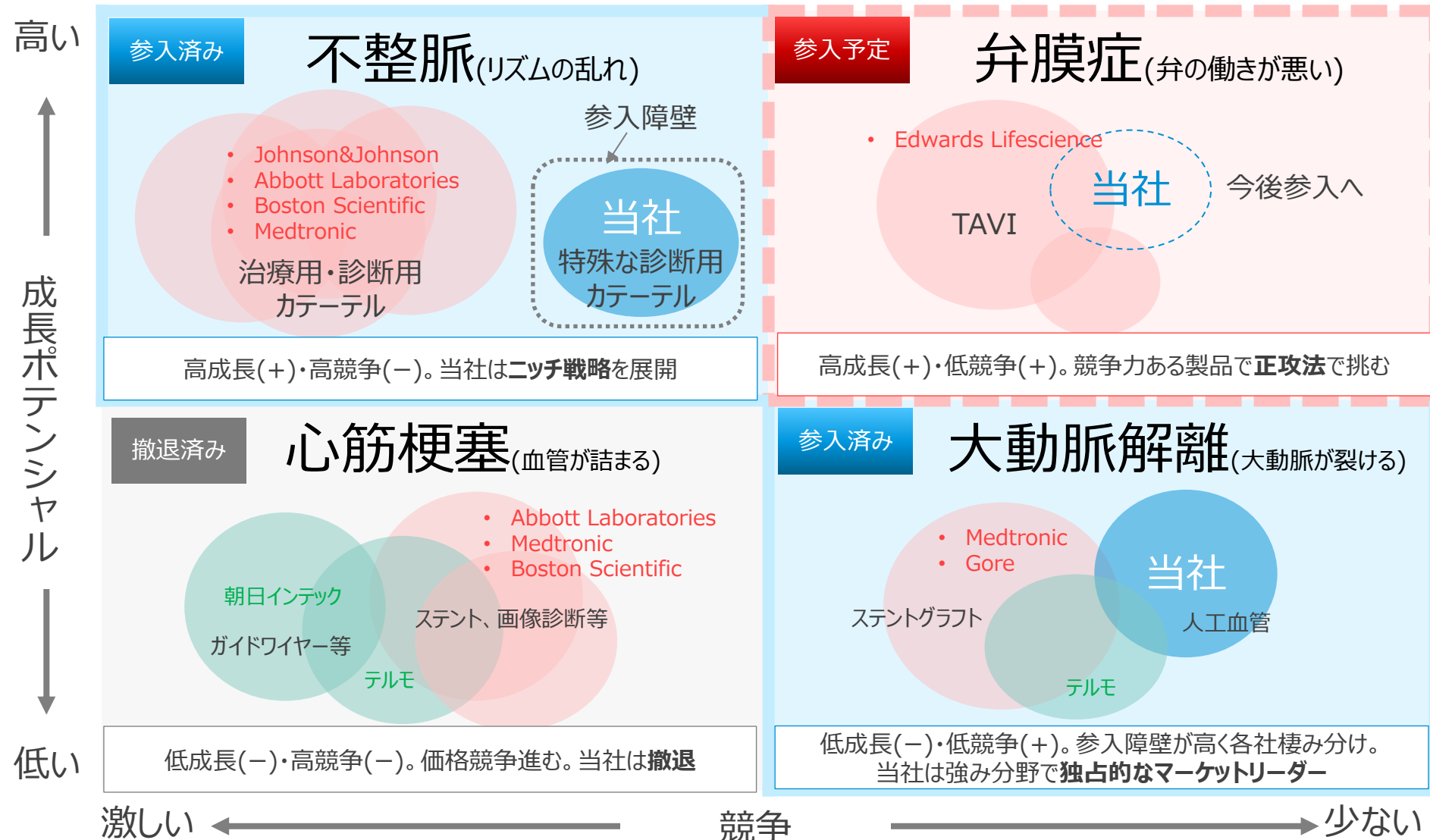
✓ 当社は急性期医療を担う総合病院等に対して、高リスク・高付加価値品を提供する

低い ← リスク → 高い

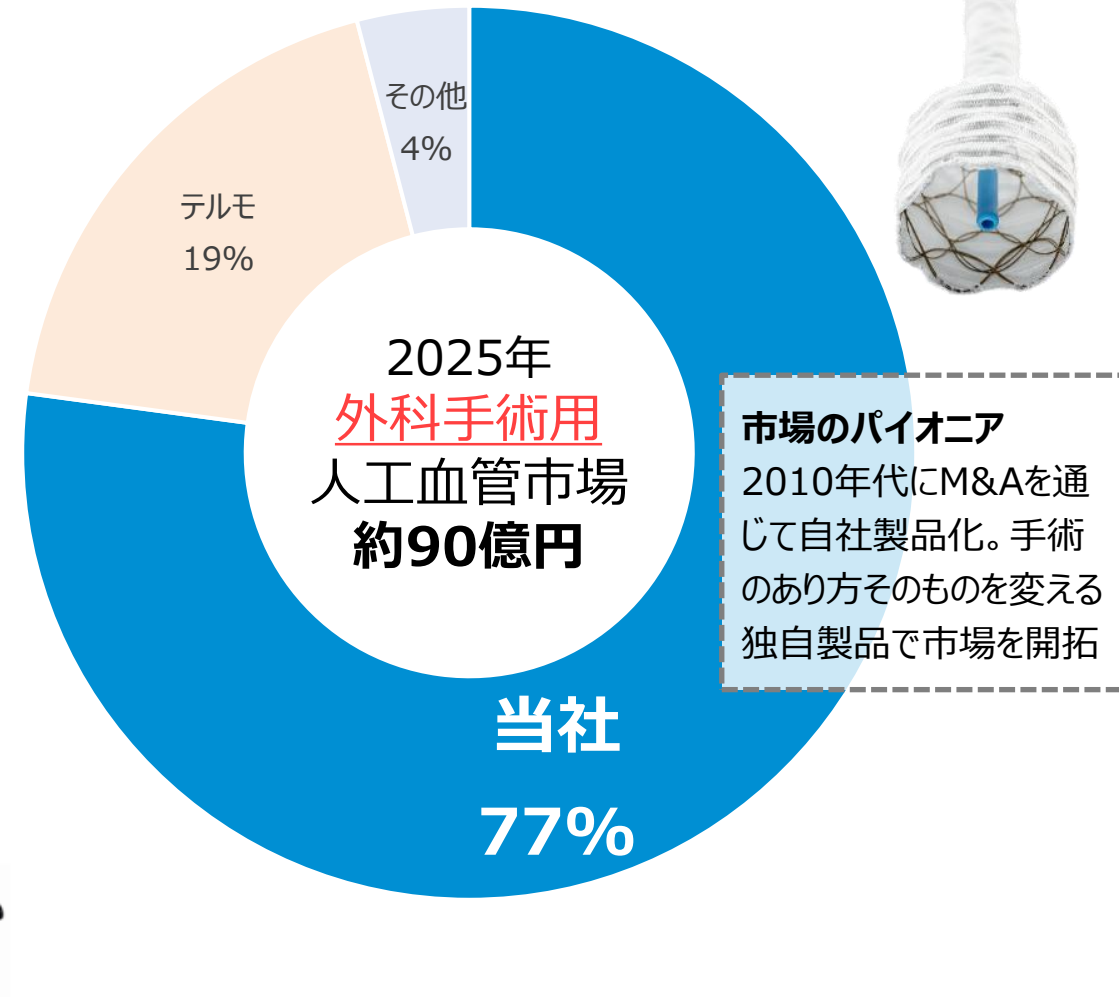
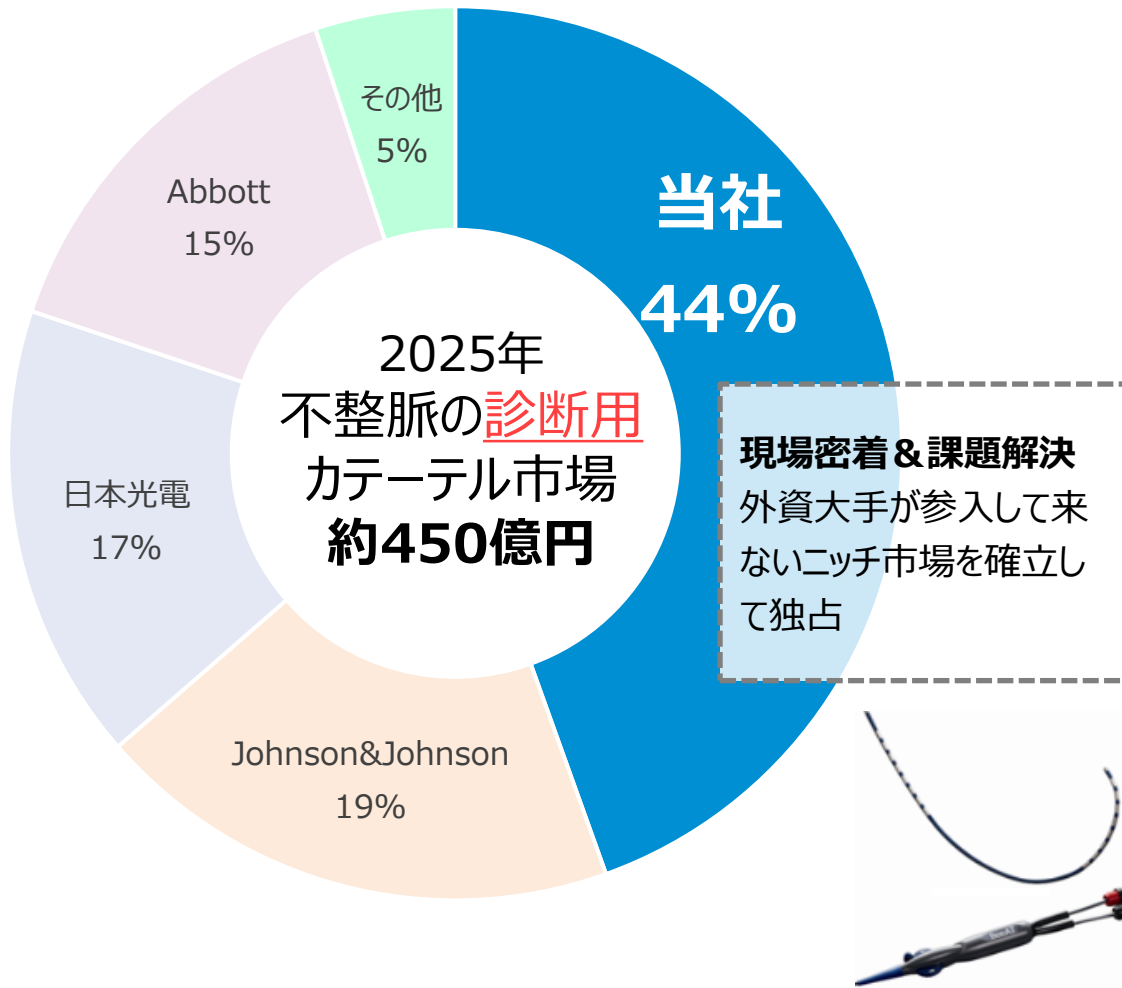
クラス分類	クラスⅠ	クラスⅡ	クラスⅢ	クラスⅣ
	不具合が生じても人体へのリスクが <u>極めて低い</u>	不具合が生じても人体へのリスクが <u>比較的低い</u>	不具合が生じると人体へのリスクが <u>比較的高い</u>	不具合が生じると、 生命の危機に直結
上場医療機器企業の主力製品の領域				日本ライフライン
				朝日インテック
	テルモ			
		オリンパス		
		日本光電		
	マニー			
主な顧客層	すべての医療機関 (10万以上)	開業医クリニック～総合病院 (数万)	専門特化クリニック + 総合病院	大学病院、総合病院 (数百～千)
薬機法の分類	一般医療機器	管理医療機器	高度管理医療機器	
規制	届出	第三者認証	大臣承認(PMDAで審査)	

【各社分布について】日本ライフライン…電極カテーテル(Ⅲ)や人工血管(Ⅳ)など。朝日インテック…PTCAガイドワイヤー(Ⅳ)など。テルモ…輸液セット(Ⅰ)から冠動脈ステント(Ⅳ)まで幅広い。オリンパス…消化器内視鏡システム(Ⅱ)など。日本光電…生体情報モニタ(Ⅱ)やAED(Ⅲ)など。マニー…手術用縫合針(Ⅱ)や眼科用ナイフ(Ⅱ)など。

✓ 4つに大別されるセグメントの中で、当社は有利なポジションを構築



✓ ニッチ市場でオンリーワン製品を展開し、大手企業に対して圧倒的なシェアを誇る



- ✓ 医療機器が手術で使用される度に売上発生 ⇒ **売上は手術件数(=症例数)に連動**
- ✓ 手術件数は中長期的に増加トレンドが継続する見通し

収益モデル

JL Japan Lifeline



全国の営業拠点

① 直接営業
在庫預託



医療機関



② 手術で使用

※ここで売上を認識

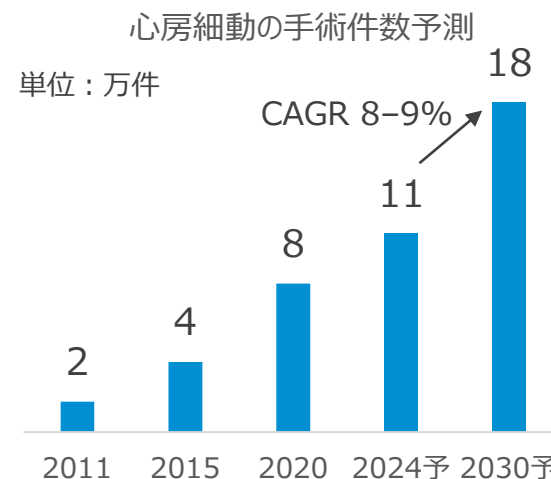
③ 支払

※販売代理店を経由



収益ドライバー：手術件数

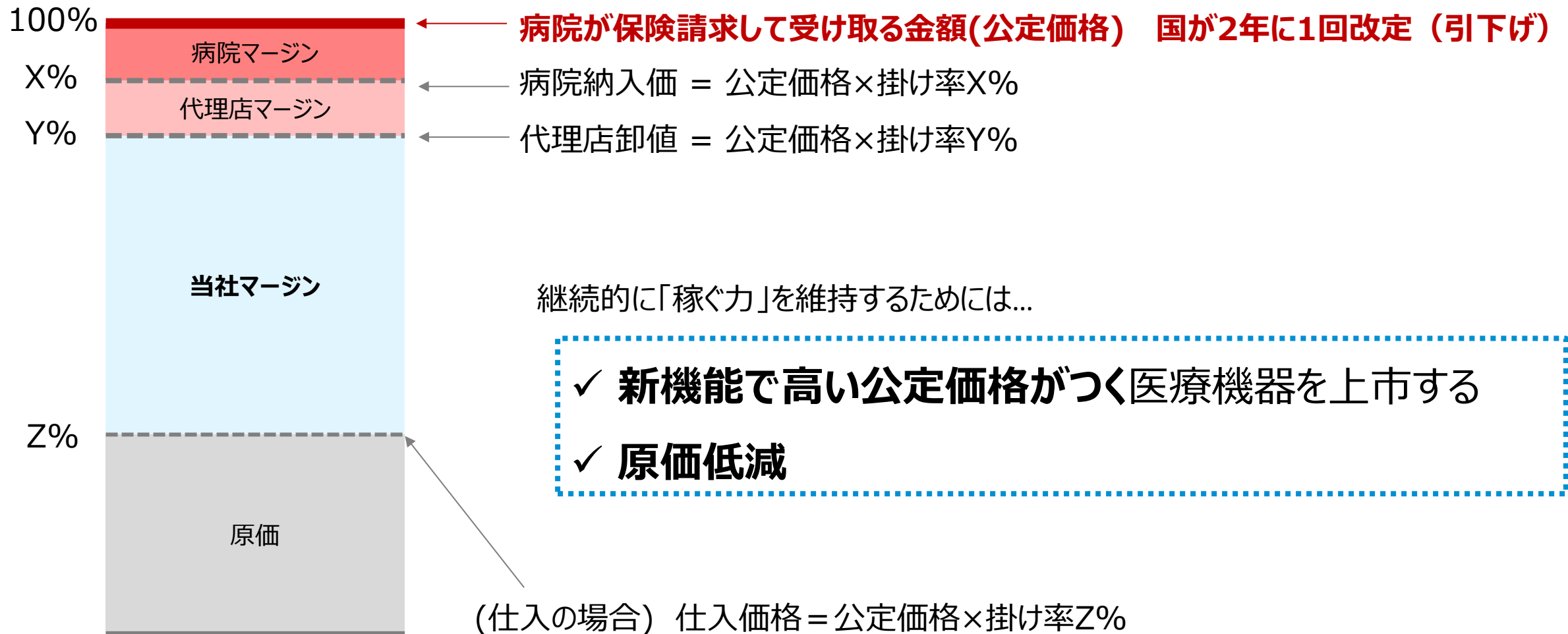
心房細動の潜在患者数
100-170万人



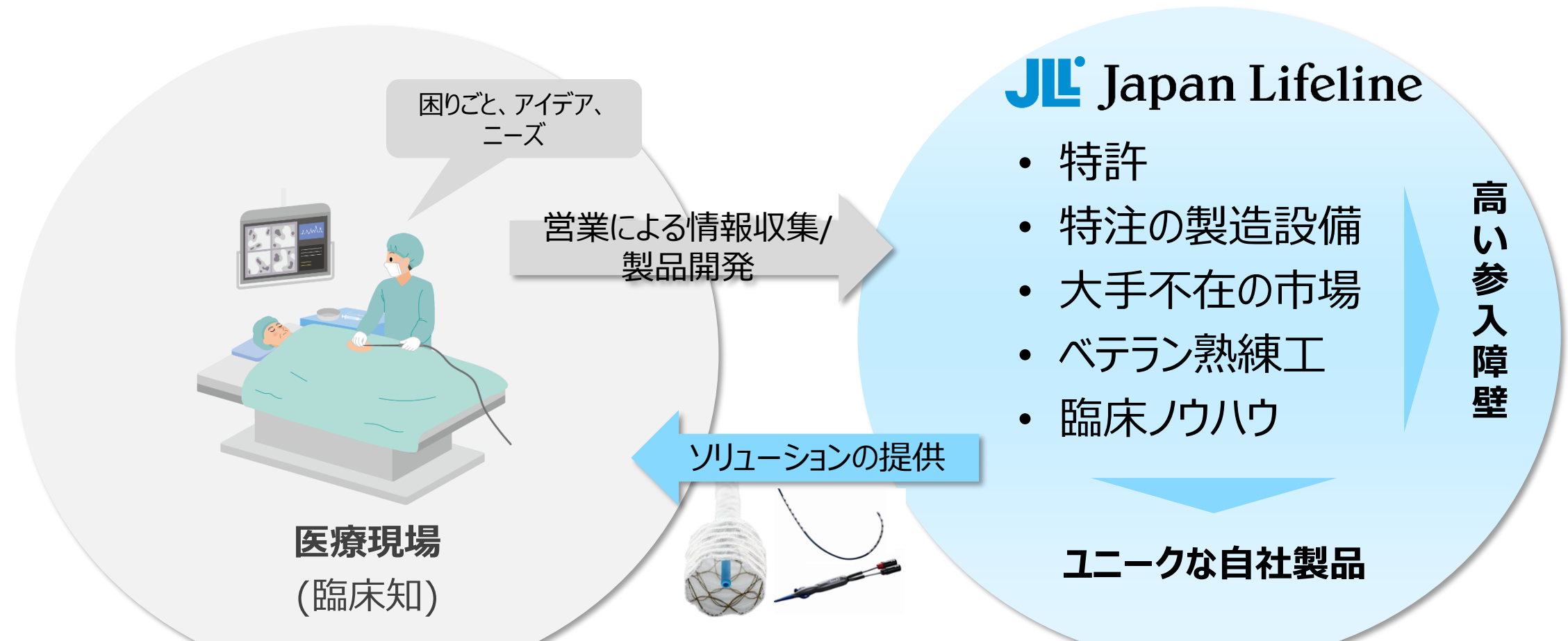
出所：自社調査を元に推計

- 年間の手術件数10万件前後に対して潜在患者数は10倍以上
- 無自覚で未治療の「予備軍」が多く、近年は、ウェアラブル端末の発達により、患者の掘り起しが進んでいる

- ✓ 当社が取扱う高度管理医療機器には機能力ゴリー別に固有の**公定価格**が設定されており、これをベースとして値決めがなされる



- ✓ 現場の医療ニーズに即した他社の追随を許さないユニークな製品を自社開発



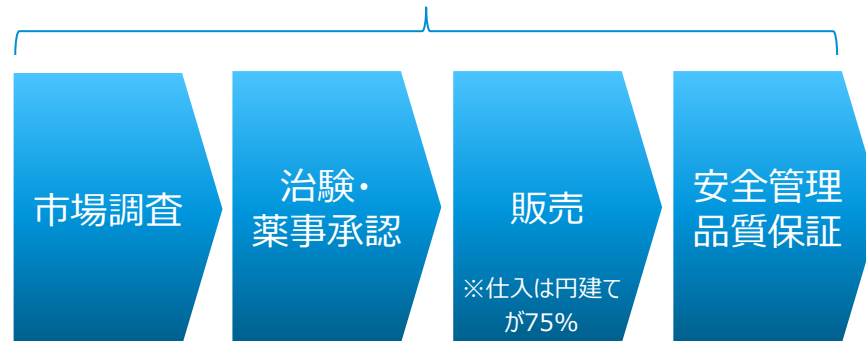
患者さんの苦痛を軽減し、「医師の思い通りの手術」を実現する

強み② 高付加価値を創る「目利き」商社

- ✓ 長年培った「目利き力」で海外パートナー企業を選定し、「日本支社機能」をワンストップで提供。当社の商社機能は、高付加価値を「創る」ビジネス



海外企業の「日本支社機能」を丸ごと代行
(長期の独占販売契約)



広範なバリューチェーンをカバーすることで高付加価値を創出

導入製品
平均粗利率40%



日本の医療現場
(患者さん・医療従事者)

基盤

40年の実績と「目利き力」(選ばれる立場)

社会的使命

「心臓領域×高度医療」の専門家である当社にしか果せない役割

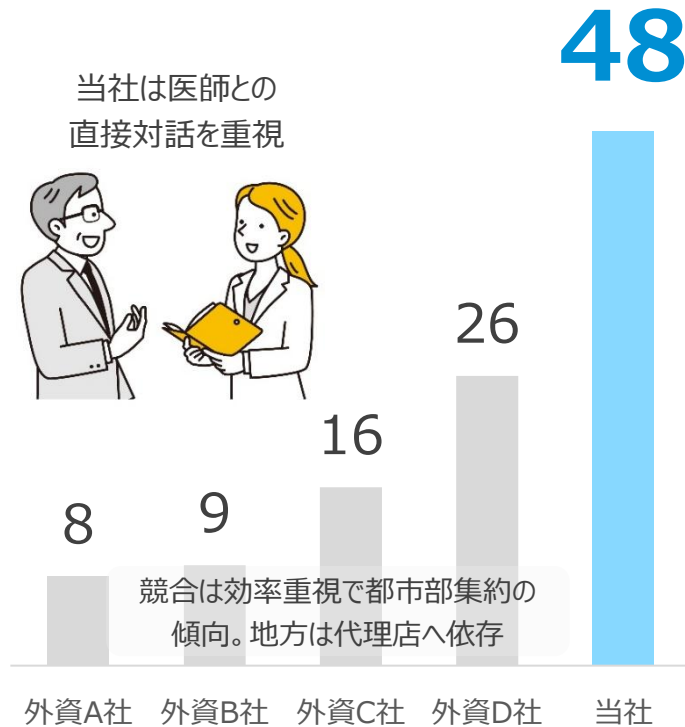


強み③ 全国をカバーする組織的な販売力

- ✓ 購買決定者である医師に自社で**直接営業**を行うために、**多拠点出店戦略**を採用
- ✓ 組織的な面での営業で、**市場シェア**を短期間で一気に獲得する「**瞬発力**」が大きな強み

多拠点出店

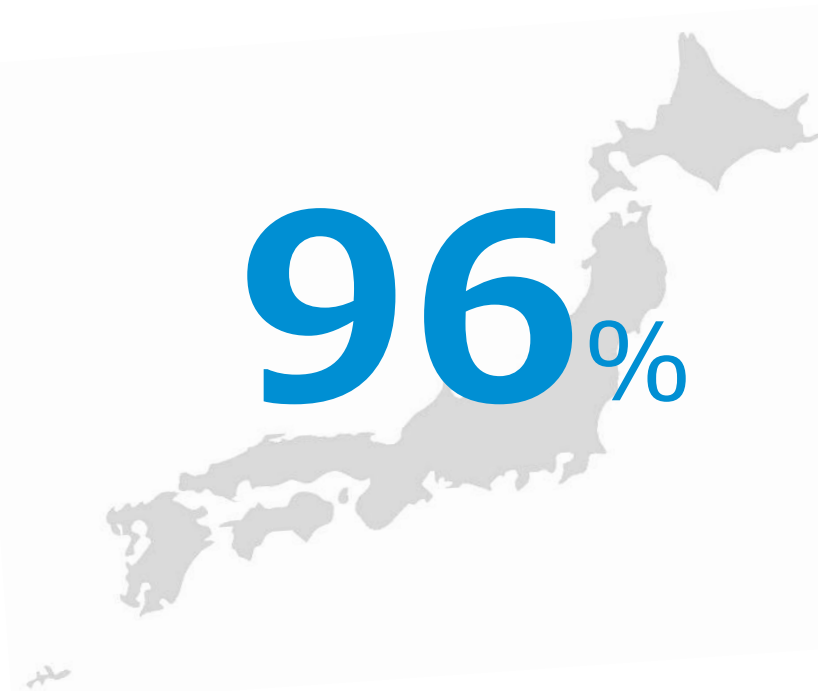
他社との営業拠点数の比較



出所：各社ホームページ（2025年6月時点）

高い顧客カバレッジ

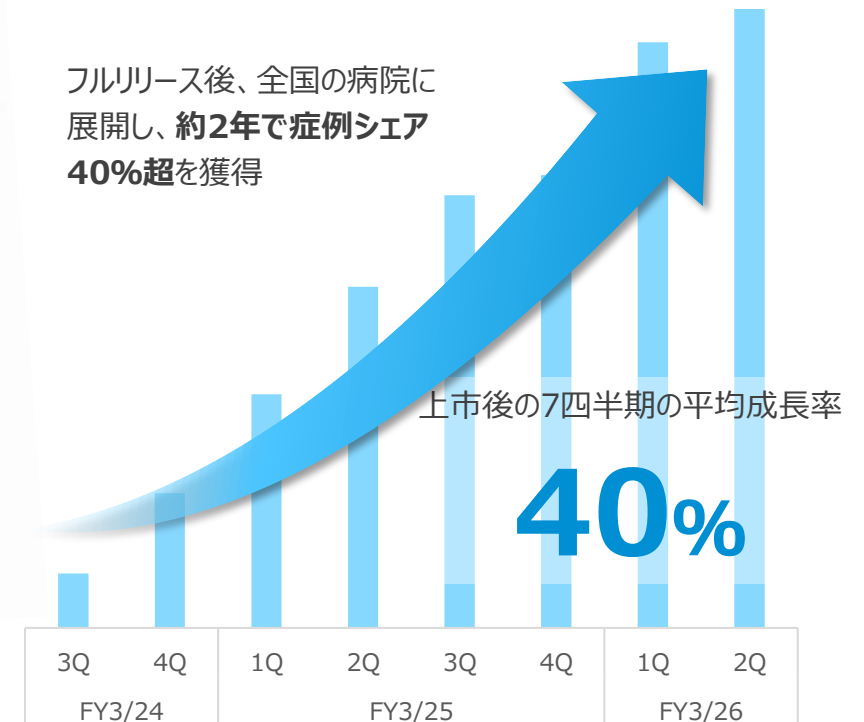
国内顧客カバー率*1



短期間でシェア獲得

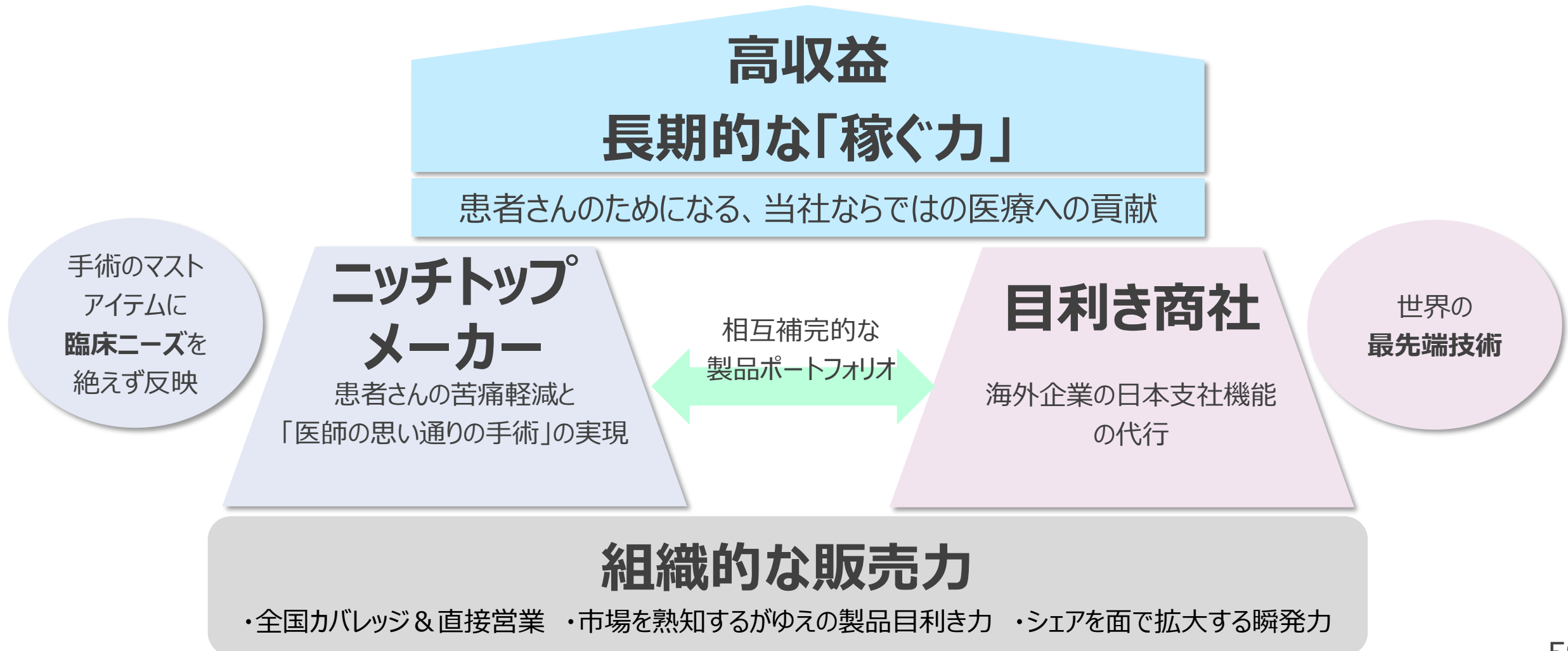
(例)大腿静脈用止血デバイスの売上高

フルリリース後、全国の病院に展開し、約2年で症例シェア40%超を獲得



*1 国内で不整脈手術(アブレーション実施施設)を実施する約770施設、心臓外科手術を実施する約560施設に対する販売実績をもとに当社推定（2023年）

- ✓ 世界の「最先端」と日本の「現場の声」の両方に対応する唯一無二の「ハイブリッド・モデル」



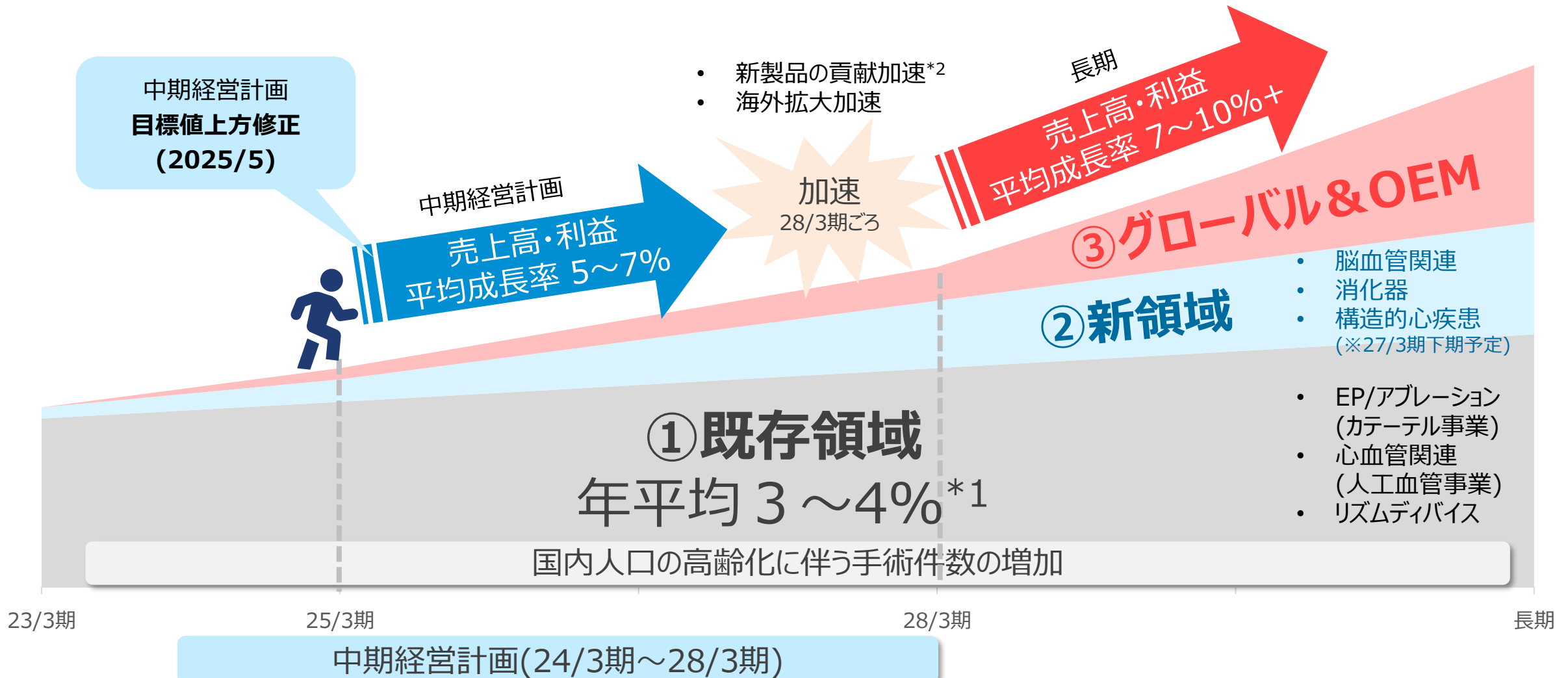
1. 事業ハイライト

2. 戦略ハイライト

3. 業績ハイライト



- ✓ 既存領域で安定成長しつつ成長戦略を実行し、売上・営業利益の高成長を目指す



^{*1} 中長期の平均成長率のイメージ。単年度では公定価格改定や特定製品の販売開始・終了等の要素により、上下にブレる可能性がある ^{*2} リードスペースメカ(リズムデバイス)、PFAカテーテルOEM輸出(EP/アブレーション)、フローダイバーター(脳血管関連)、経カテーテル生体弁(構造的心疾患)など

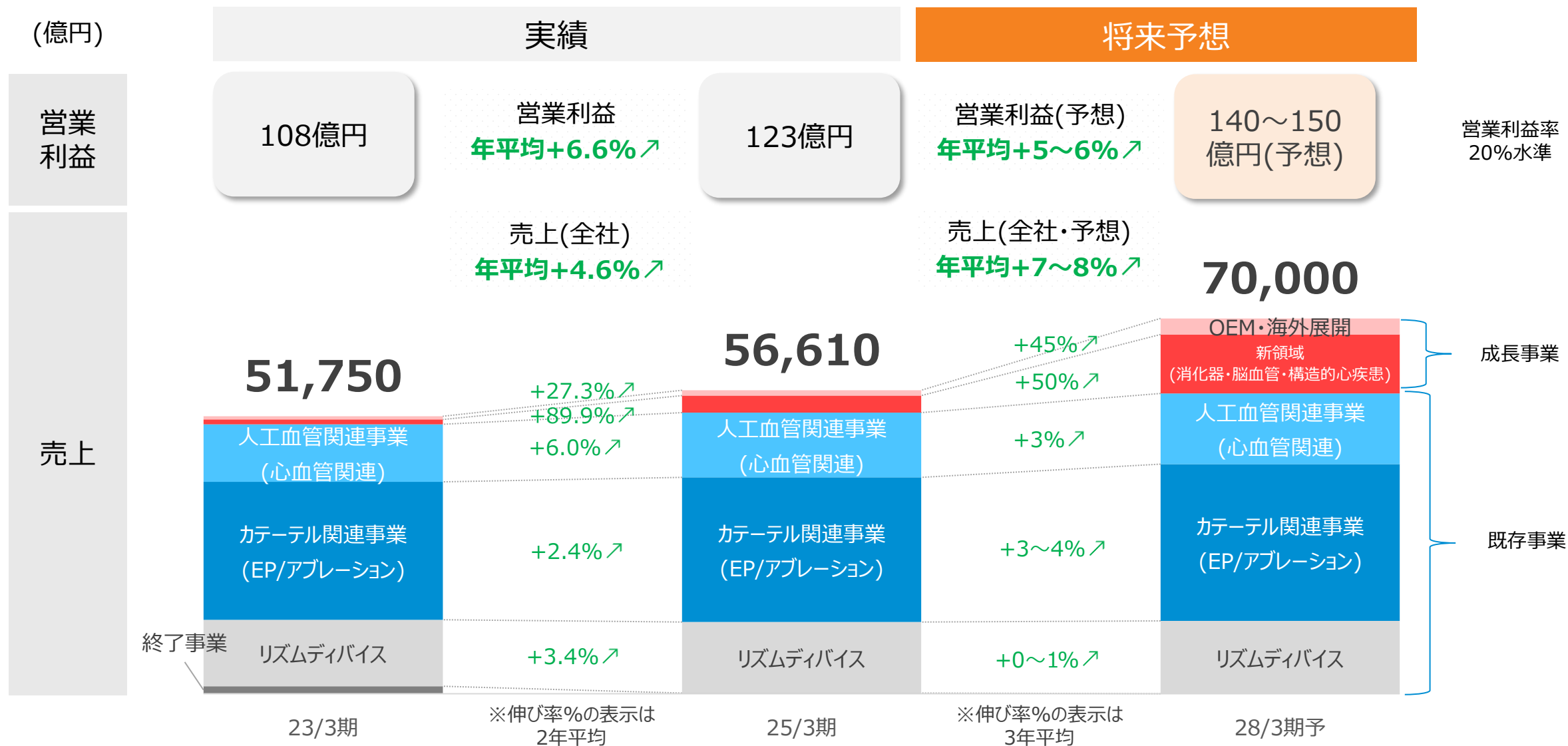
中期経営計画(2024/3期～2028/3期) 数値目標

✓ 2025/5に計画最終年の目標値を上方修正

	2025/3期 実績	2028/3期		修正内容	修正の主な理由
		旧目標 (2023/5設定)	新目標 (2025/5設定)		
売上高	566億円	630億円	700億円 3年CAGR 7.3%	+70億円	- 心房細動の症例数の想定を上方修正 (5年CAGR6%→9%) - グローバル売上高の伸長
新領域売上高	32億円	80億円	110億円	+30億円	経カテーテル生体弁への参入
営業利益率	21.8%	20%水準 (毎期)	20%水準 (毎期)	変更なし	—
EPS	131円	120円	145円 3年CAGR 3.4%	+25円	売上高成長に伴う利益成長
ROIC	13.7%	12.0%	13.0%	+1.0pp	粗利率と棚卸資産効率の改善に向けた取組みを推進

中期経営計画の途中経過

✓ 今後3年は、売上高平均7～8%、営業利益平均5～6%の成長を目指す



✓ 中核事業でトップシェアを堅持。市場成長を着実に刈り取り、年3～4%程度の成長

事業	戦略	具体策
 カテーテル関連事業 (EP/アブレーション)	✓ ニッチトップシェアの継続 ✓ 新しい治療トレンドを踏まえた改良・パイプライン開発	✓ トップシェア製品(心腔内除細動カテーテル)への継続的投資、改良 ✓ 医療課題解決につながる仕入商品の導入 ✓ 最新のトレンド(PFA)に合わせた治療カテーテルの開発 ✓ M&Aを通じたパイプラインの獲得 ✓ 「診断・治療」中心から「予防・アフターケア」へ領域拡大
 人工血管関連事業 (心血管関連)	✓ ニッチトップシェアの継続 ✓ あらゆる症例に対応可能な「トータルポートフォリオ戦略」を追究	✓ トップシェア製品(Frozen Elephant Trunk)の次世代品開発 ✓ 症例カバレッジの拡大—胸部ステントグラフト製品の獲得

✓ 各市場で早期の製品ポートフォリオ確立を目指す

	市場*1	売上目標	戦略
1  脳血管 仕入品	トータル 500億円 ターゲット 500億円 市場成長 年約8～10%	(億円) 3年CAGR 35% 23/3期 2 25/3期 18 28/3期予 45	- Wallaby Medical (中国)と10年間の独占販売契約 - 脳梗塞&脳動脈瘤の治療でトータルポートフォリオを構築し、業界のリーダーとなる
2  消化器 自社品	トータル 600億円 ターゲット 250億円 市場成長 年約2～3%	(億円) 3年CAGR 35% 23/3期 7 25/3期 13 28/3期予 35	- カテーテルやステントなどの自社の強み技術を消化器製品に転用し、競争力ある製品を開発 - 安定的な成長が見込める胆道・膵臓の市場に集中
3  構造的心疾患 仕入品	トータル 750億円 ターゲット 650億円 市場成長 年約8～10%	(億円) 23/3期 25/3期 28/3期予 30	- Meril Life Sciences (インド)と10年間の独占販売契約 - 弁膜症の領域に後発で参入、特長のある製品で一定のシェア獲得を目指す

*1 2025年当社推定

- ✓ カテーテルや人工血管などの自社製品でグローバルシェア獲得を目指す

フェーズ1

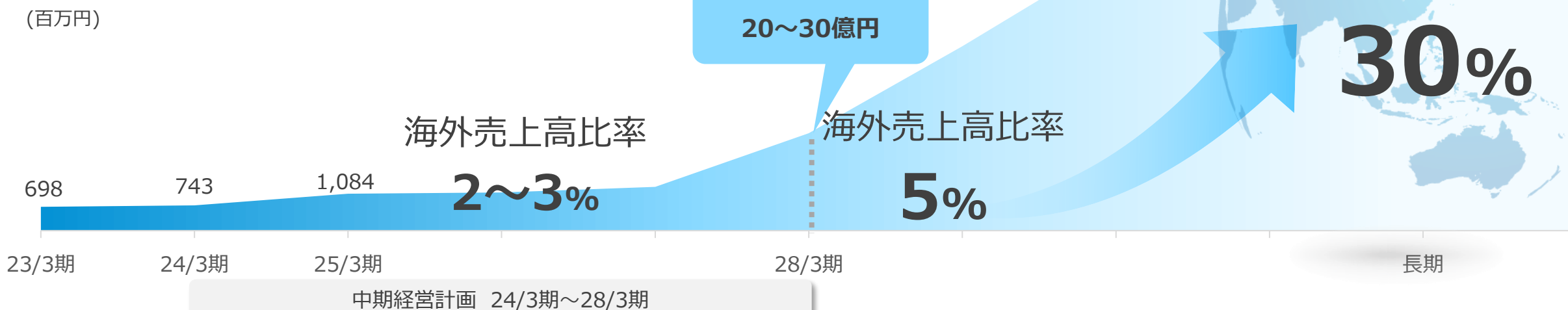
中東・アジア10数か国へ進出
(～28/3期)

- ✓ 比較的進出しやすい中東・アジアの10数か国へ
現地の販売代理店を通じて展開
- ✓ 米国・欧州の承認取得に向けた準備(主に品質
管理システム規制)への対応
- ✓ グローバル供給を見据えた**製造キャパの拡大**

フェーズ2

欧州・米国市場へ進出
(中長期)

- ✓ 米国FDA承認、欧州CEマーク認証の取得
- ✓ 国内で圧倒的なシェアと実績を持つ**カテーテルや人工血管製品の輸出**



1. 事業ハイライト

2. 戦略ハイライト

3. 業績ハイライト



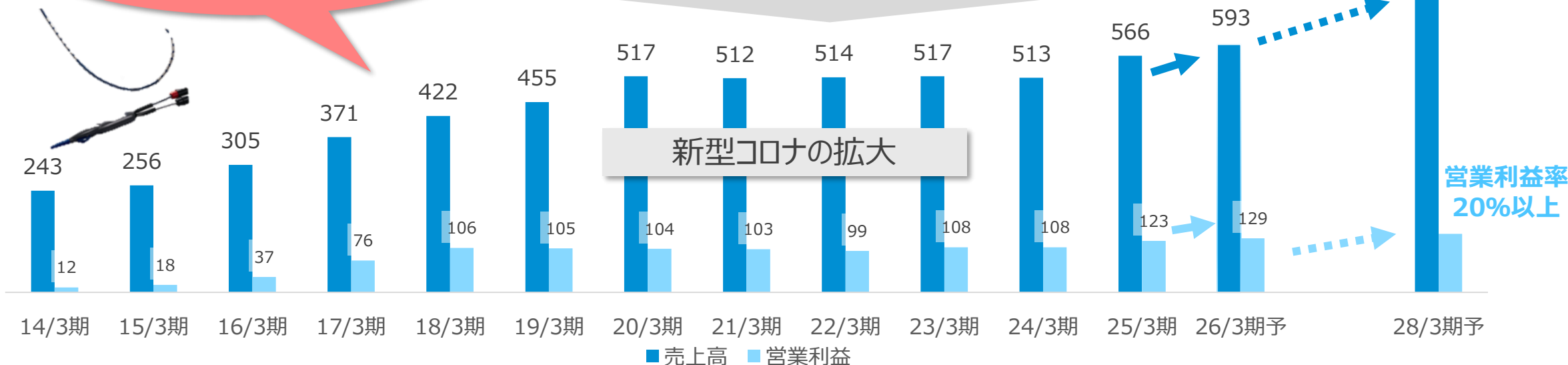
- ✓ 症例数の増加を契機に**自社製品で大きく成長**。ポートフォリオ改革で業績は一時横ばいも、足元は新領域を強化する等の**成長戦略を打ち出し、新たな成長フェーズに向かう**

売上高と営業利益の推移（億円）

- (+) 心房細動症例の継続的な増加（年数%~10%）
- (+) リズムデバイスの仕入先変更（20/3期）
- (+) 消化器・脳血管領域への新規参入
- (-) 新型コロナの拡大（20/3期~23/3期）
- (-) インターベンション事業の不振（24/3期で終了）
- (-) 一部仕入商品の独占販売終了（胸部ステントグラフト、人工心臓弁：19/3期、RFコードル：23/3期）

心房細動症例数の増加
（年20%以上）
に伴うオンリーワン自社製品の急拡大

成長路線へ回帰 **700**



業績**拡大期**

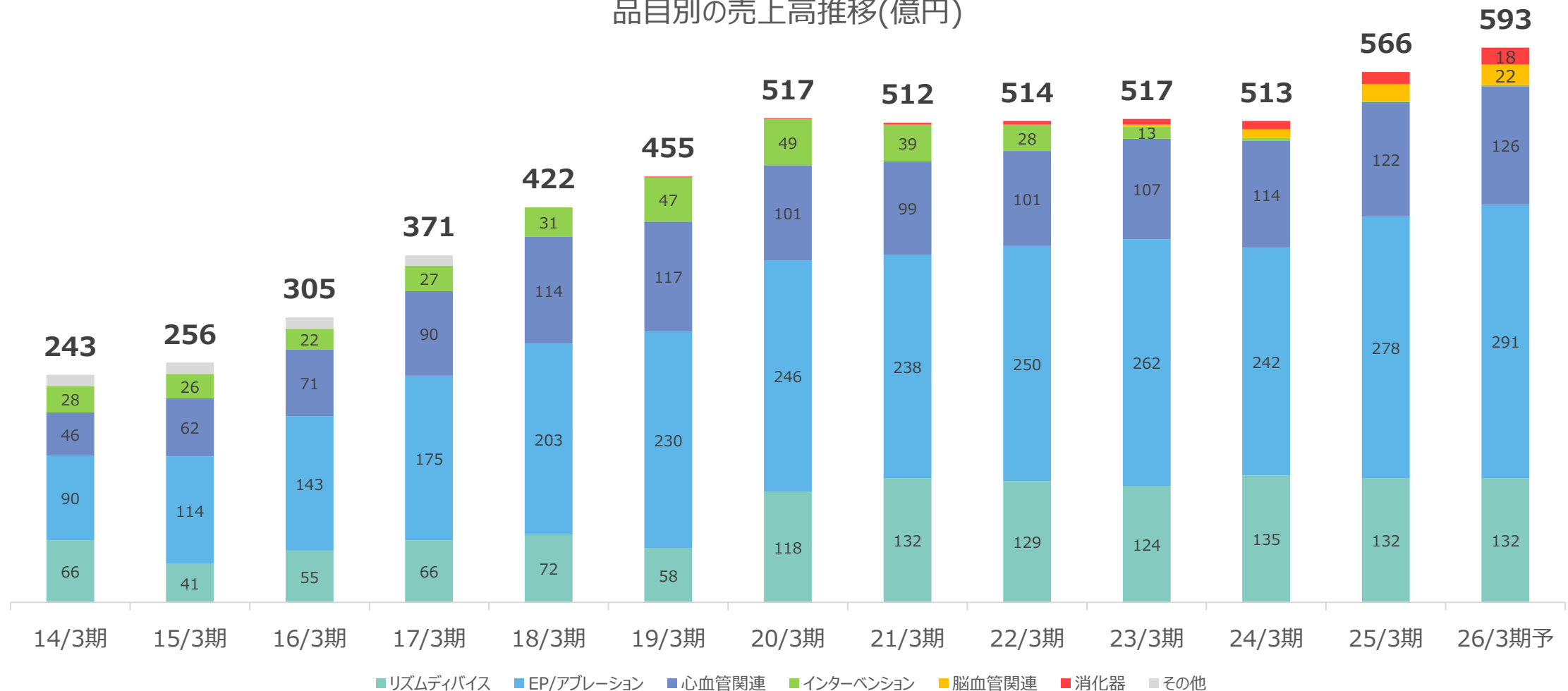
ポートフォリオ改革期

業績**再拡大期**

品目別売上高の長期推移

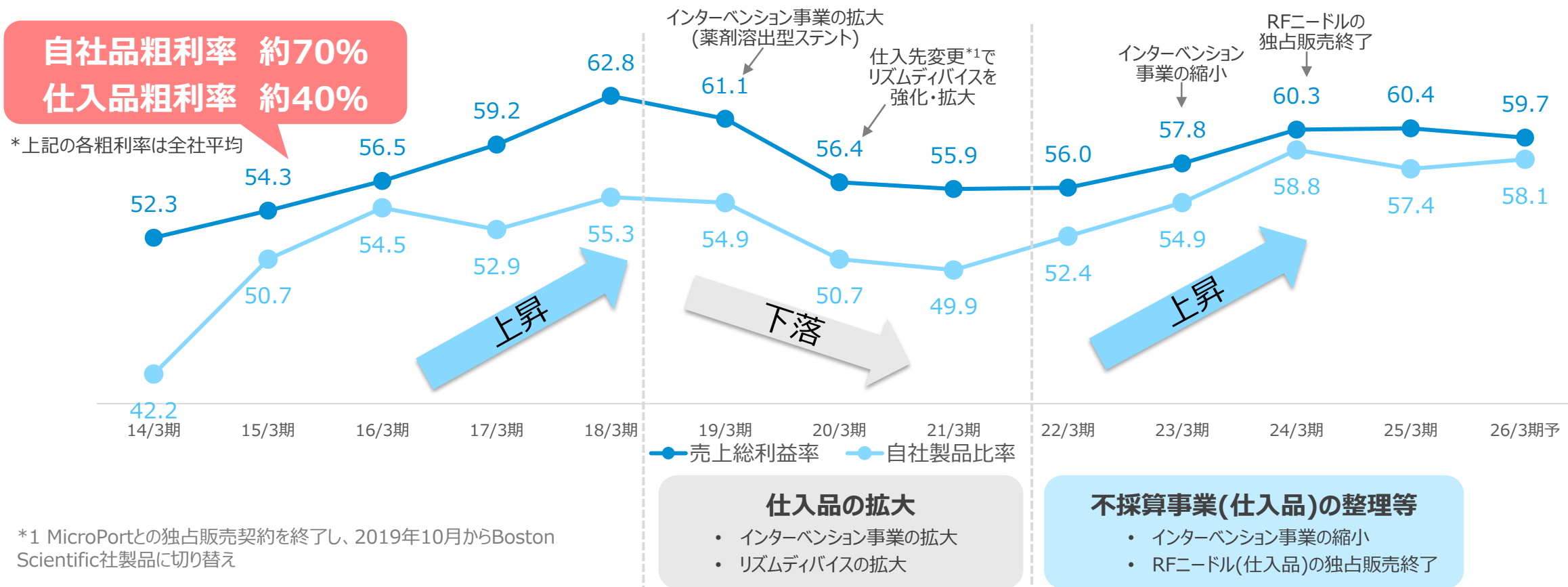
- ✓ 中核のEP/アブレーションを強化しつつ、**新領域(脳・消化器)**を推進
- ✓ 低成長市場となったインターベンション(心筋梗塞関連)からは24/3期に撤退

品目別の売上高推移(億円)



- ✓ 全社マージンは短～中期では仕入品の動向の影響を受ける。一方、自社製品売上に連動する症例数は増加傾向にあるため、**長期のマージンのベーストレンドは上昇**

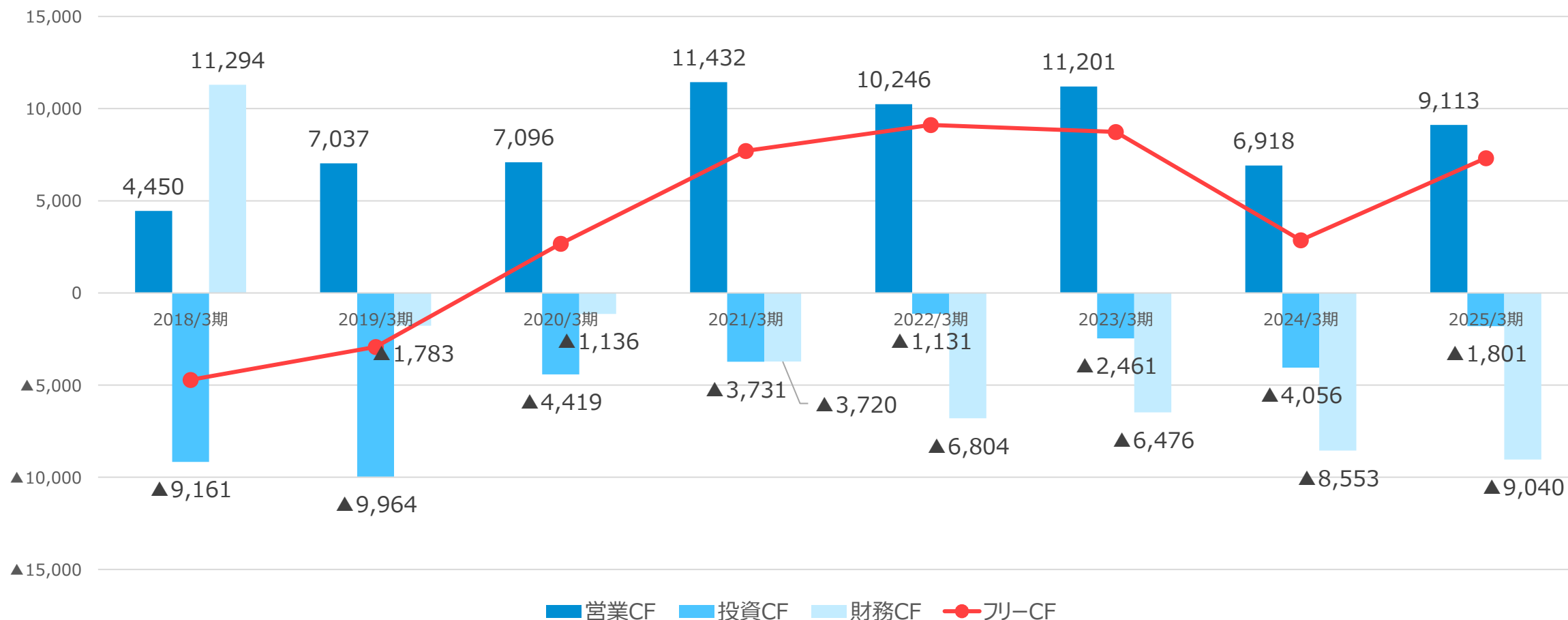
売上総利益率と自社製品比率の推移(%)



ベーストレンド：症例数増加⇒自社品増加⇒マージン上昇

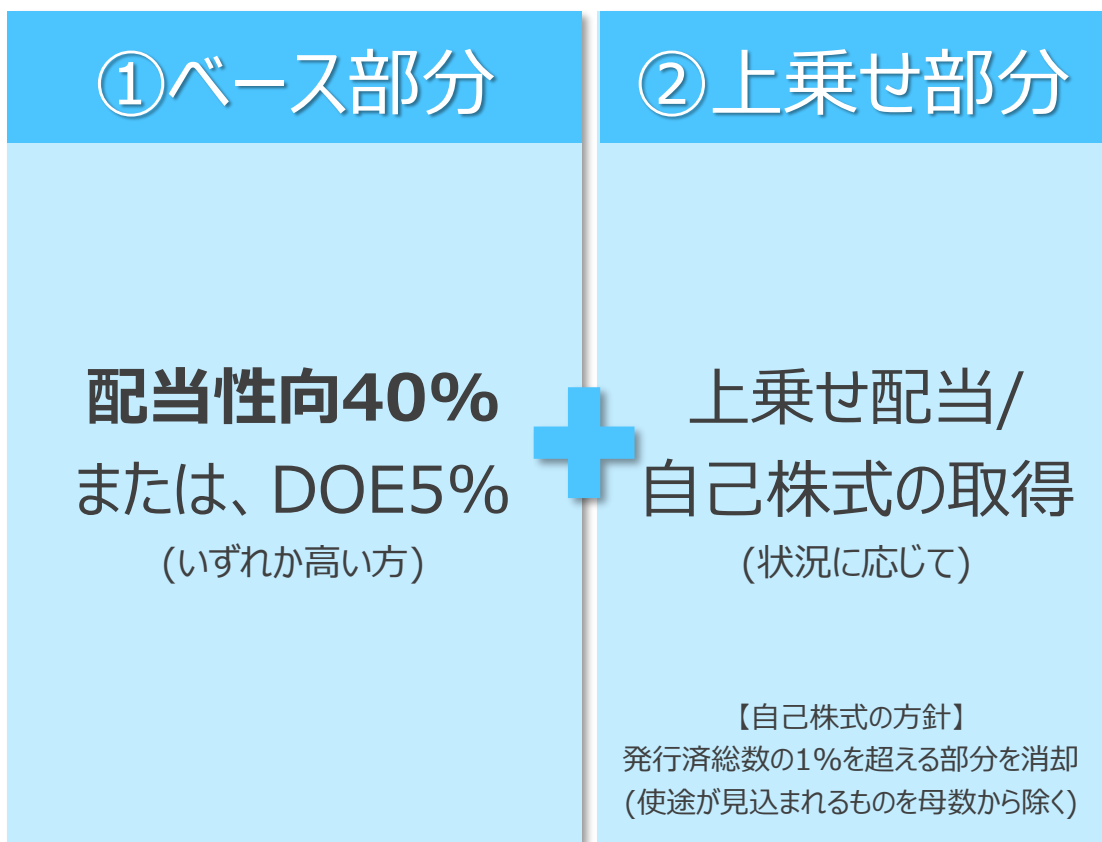
- ✓ 国内の強固な収益基盤によりフリーキャッシュフローは安定的に推移。追加投資や株主還元
元
の原資を十分に確保

キャッシュフローの推移(百万円)

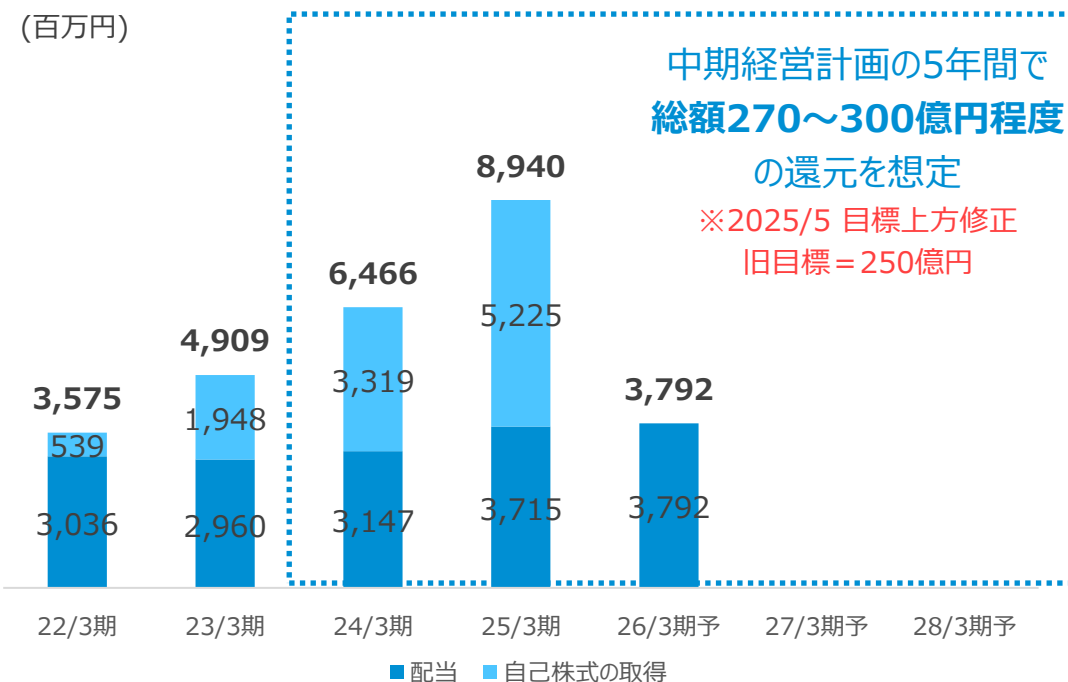


- ✓ 株主還元はベース部分と上乗せ部分の2階建て構成
- ✓ 現行の中計5年間で270～300億円程度の還元を想定

◆株主還元の基本方針



株主還元の実績



参考) 配当実績	22/3期	23/3期	24/3期	25/3期	26/3期予
EPS(円)	93.13	88.22	98.73	131.43	133.30
配当(円)	38.00	38.00	42.00	53.00	54.00
配当性向(%)	40.8	43.1	42.5	40.3	40.5

免責事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報および合理的であると判断する一定の仮定に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。特に新製品の導入、治験、薬事承認、発売時期等に関する予測には、多分に不確定要素が含まれています。実際の業績等は、市場環境の変化や規制動向など、様々な要因により大きく異なる可能性があることにご留意ください。また、本資料には未承認製品に関する情報が含まれていますが、これは宣伝広告や医学的アドバイスを目的としたものではありません。

本資料に関するお問い合わせ先

日本ライフライン株式会社
経営企画部IR課
TEL:03-6711-5214
E-Mail:ir@jll.co.jp
URL:<https://www.jll.co.jp>